

研究紀要

第48号

2022

国際学院埼玉短期大学

国際学院埼玉短期大学研究紀要

第48号 令和4年3月

目 次

資料論文

- 保育内容「環境」の指導への自信・・・・・・・・・・・・・・・・・・清水 誠・・・・・・1
- 『保育者養成校における保育実習指導の在り方の一考察』
—教育・保育実習終了学生へのアンケート調査をもとに—
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山下佳香・・・・・・10
- 『「保育内容：表現」における音楽表現領域・造形表現領域・身体表現
領域の実技試験の実践と学生レポートの分析について』
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山下佳香、古木竜太、越智光輝・・・・・・22

報告

- コロナ禍における体育大会の実施報告—
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・古木竜太・・・・・・34
- 『「保育の造形Ⅰ」における学生の興味関心と授業改善の一考察』
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山下佳香・・・・・・49

- 研究業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

保育内容「環境」の指導への自信 Confidence in Teaching of Childcare Contents "Environment"

清水 誠 国際学院埼玉短期大学

幼稚園教育要領等に示されたねらいを達成するために指導する事項としての領域「環境」にある12の各内容を指導する自信の有無について、短期大学生に対し調査を行った。結果は、自信がある内容は「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」「(7)身近な物を大切にする」であった。自信が持てない内容は「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」であった。こうした理由として、内容(3)は実感しやすく変化が目に見えて分かる内容であるため自信がもっており、内容(7)は「私自身が物を大切にしよう意識している」と説明しているように学生自身が心がけている内容には自信があると考えていることがわかった。内容(11)や(12)の記述からは、情報や施設、国旗がよくわからないといった知識の不足に加え、どのように活動させたらよいか分からないといったことから自信が持てない内容であることがわかった。

キーワード：保育者養成課程、保育内容「環境」、指導の自信、短期大学生

1. はじめに

平成29(2018)年に改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針や幼保連携型こども園教育・保育要領は、保育・教育を幼児教育として共通に捉えている。3歳以上の子どもについては、幼稚園、保育園、幼保連携型こども園が共通のねらいと内容を持ち、共通の資質・能力を育てていくことが明示された。ねらいを達成するために指導する事項として、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」として示されている。

領域「環境」に関わる研究は、他の領域と同様数多くなされているが、畑野・大竹(2020)は「保育内容 環境」をキーワードとして国立情報学研究所の学術情報ナビゲーター(CiNii)から1944年～2019年までの247件の文献をテキストマイニングにより検索している。その結果、「保育内容 環境」では保育者の保育内容の理解、幼児の植物の生物的理解や季節の認知、運動遊びの実践、地域とのかかわりといった環境の社会、集団という「環境」を見据えて研究がなされており、出現頻度の高い名詞句は「内容」「環境」「幼児」「子ども」「領域」「学生」「幼稚園」であったと述べている。しかしながら、出現頻度の高い「学生」に関わる研究は、例えば菊地(2007)、氏原(2014)、栗原(2017)、中島(2017)等の研究に見られるように授業実践の記録や授業内容についての検討をしたものであった。保育者志望学生が抱く領域「環境」の活動の特徴について調べた研究には、西山・岡村・中川・片山(2017)のものがある。そこで明らかにされたのは、領域「環境」では保育者の役割や意味のある環境にしていくことが大切と捉えていることであった。また、西山(2021)は学生に見られた記述、子どもを「促す」「育てる」「生活」「興味」をもとに、養成教育にそれらを還元し指導方法の見直しを図ろうとする研究を行っている。しか

しながら、保育者を目指す学生が「環境」の各内容を指導する自信の有無について調べた研究は見られない。

本研究では、身近な環境との関わりに関する領域「環境」の12の内容について、保育者志望学生が本学の1年前期科目「環境」を学んだ時点で感じる各内容を指導する自信の有無について明らかにし、授業改善に資することを目的とした。なお、領域「環境」については、筆者が勤務する幼児保育学科においては専門科目（形式：演習、単位数1）の1年生の前期科目として「環境」、後期科目として「環境領域指導法」が設置されている。

2. 研究の方法

2-1 調査対象及び時期

埼玉県内にある短期大学幼児保育学科の1年生、88（男1、女87）名を対象とした。

調査は、1年の前期科目である「環境」が終了した2021年7月に実施した。調査を7月に実施したのは、初学者である入学当初の学生が領域「環境」の内容について例えば「環境問題」を学修するといった捉え方をしており、幼稚園教育要領等で示された領域「環境」の12の内容について何を学ぶのか十分な理解ができていないためである。調査対象の学生達は、幼稚園での教育実習や保育所・施設での保育実習は受けていない。

なお、1年前期科目「環境」のシラバスは、図1に示すとおりである。授業終了時の到達目標は、(1)～(4)の4つであった。

シラバスの情報	
タイプromポリシー	
◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性	
授業の概要（7行まで）	テキスト（3行まで）
本科目では、発表・討議を通して子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を身につけられるよう、背景となる専門領域と関連させながら領域「環境」のねらいや内容についての理解を深める。また、コミュニケーション・スキル等の汎用的技能を修得するとともに他者と協働して生涯にわたり自律・自立して学修できる能力を培う。	・「幼稚園教育要領ハンドブック」武藤隆監修、学研 ・「保育所保育指針ハンドブック」汐見稔幸監修、学研
	参考図書（6行まで）
	・あしたの保育が楽しくなる実践事例集「ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成-3・4・5歳児の主体的・対話的で深い学び」、編集代表 岡上直子、ひかりのくに ・事例で学ぶ保育内容 領域「環境」新訂 無藤隆監修、紀伊國屋書店 ・「保育内容 環境」神長 美津子他著、光生館
授業の到達目標（7行まで）	授業時間外学習（6行まで）
(1) 幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。 (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と取扱い上の留意点を説明できる。 (3) 「環境」で扱う教材や遊びについて熟知し、説明できる。 (4) 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わるとともに、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。	・事前学習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索してまとめる。 ・事後学習として、学修を振り返り理解を深める。 ・各授業において授業を含み3時間（総計45時間）の学習となるよう、事前・事後の時間外学習が必要である。
成績評価の方法（5行まで）	課題に対するフィードバック等（3行まで）
全体で100%とし、「定期試験における筆記試験50%」、「レポート40%」、「学修に対する関心・意欲・態度10%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。	領域「環境」のねらい及び内容を振り返り、身につけることができるよう学修履歴表（レポート）を作成する。提出された学修履歴表は、コメントを付してフィードバックする。

授業計画		
週	テーマ(2行まで)	学習内容(2行まで)
1	幼児期の教育の基本と全体構造	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す幼児期の教育の基本と領域「環境」の全体構造 〔時間外学習〕幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通してくる。(テ:幼32-55)
2	領域「環境」のねらいと内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す領域「環境」のねらいと内容 〔時間外学習〕領域「環境」のねらいと内容についてまとめてくる。(テ:幼116-11)
3	環境へ関わり、生活に取り入れる力を育てる	様々な環境に関わり、生活に取り入れる力を養う教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕「環境」に関わらせる教材や遊びの工夫について調べてくる。
4	自然への気付きを育む	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどへの気付きを育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕園で取り組んでいる自然と触れ合う事例について調べてくる。
5	物の性質や仕組みへの興味や関心	物に触れ、物の性質や仕組みに対する興味や関心を育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕幼児が興味や関心を示す物の性質や仕組みについて調べてくる。
6	季節による自然や人間生活の変化への気付き	季節による自然や人間生活の変化への気付きを育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕季節による自然や人間生活の変化で取り上げられる事例をまとめてくる
7	自然などの身近な事象への関心と遊び	自然などの身近な事象への関心を育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕身近な事象と幼児の遊びについてまとめてくる。(テ:幼120、121)
8	身近な動植物との関わりと気付き・生命の尊重	身近な動植物との関わりと気付き、生命の尊重を育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕園で取り組んでいる動植物と触れ合う事例について調べてくる。
9	様々な文化や伝統、行事において国旗に親しむ	様々な文化や伝統に親しみ、行事において国旗に親しむ教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕実習園で取り組んでいる行事について調べてくる。(テ:幼124)
10	物や遊具と遊び、物を大切に	身近な物や遊具との関わり、比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりする教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕幼児が遊ぶ、物や遊具について調べてくる。
11	数量や図形などへの関心	日常生活の中での数量や図形などへの関心を育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕幼児の数量や図形への関心について調べてくる。(テ:幼125)
12	標識や文字などへの関心	日常生活の中での簡単な標識や文字などへの関心を育む教材と遊びの工夫・留意点 〔時間外学習〕実習園で取り組んでいる標識や文字の指導について調べてくる。
13	情報や施設などへの興味や関心	生活に関係の深い情報や施設などの取り上げ方の工夫と取扱い上の留意点 〔時間外学習〕幼児が関心を示す情報や施設について調べてくる。(テ:幼119)
14	教材や遊びを通して「環境」の学びを育む留意点	領域「環境」における教材や遊びの工夫・留意点(グループ討議) 〔時間外学習〕幼児期に扱われる教材や遊びの基本についてまとめてくる。
15	内容の関連性と連続性	各領域の内容の関連性と小学校以降の教科等とのつながり 〔時間外学習〕学びの連続性の確保がどのように行われているか調べてくる。

図1 1年前期科目「環境」のシラバス

2-2 調査方法

調査は、質問紙法による調査を行った。調査には、領域「環境」の内容^{註1)}に対する自信の有無を問う質問紙、指導^{註2)}をするに当たっての気持ちを問う質問紙を使用した。質問紙の内容は、図2及び図3の通りである。

なお、時間の設定は、予備調査により20分間でほとんどの学生が書き終わっていたことをもとに20分間記述させることにした。

1. 「環境」の12の内容の中で保育の現場で指導する際、自信がある内容はどれですか。自信がある内容を番号で2つ順にあげてください。その理由も書いてください。

2 内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
- (7) 身近な物を大切に作る。
- (8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連づけたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- (11) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- (12) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

自信がある内容の番号 1. 2.

*上記2内容の(1)～(12)の番号を書いてください。

自信がある理由 1について

2について

2. 上記にある「環境」の内容12の中で指導する際、自信がない内容はどれですか。自信がない内容を番号で2つ順にあげてください。自信がない理由も書いてください。

自信がない内容の番号 1. 2.

*上記2内容の(1)～(12)の番号を書いてください。

自信がない理由 1について

2について

図 2 自信の有無について問う質問紙

3. 幼稚園や保育園で、「環境」の授業を進めるに当たって、①～⑦の設問について今のあなたの気持ちを4段階の中から一つ選び、○をつけてください。

① 子どもにわかりやすく授業することができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

② 子どもの能力に応じた課題をだすことができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

③ 「環境」のどの内容の授業を受け持っても、うまくやっていけると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

④ 子ども達の興味・関心を引きつける授業をすることができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

⑤ 子どもの生活や遊びを中心に置いた「環境」の授業ができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

⑥ 子どもの主体性を中心に置いた「環境」の授業を組み立てることができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

⑦ 1年を見通して、計画を立て、教材や遊びを考えることができると思う。

非常にそう思う　そう思う　そうは思わない　ほとんどそうは思わない

図3 気持ちを問う質問紙

3. 結果とその分析

3-1 保育の現場で指導する自信

幼稚園、保育園、幼保連携型こども園が共通のねらいとする領域「環境」の内容に対し、学生達が「自信がある」及び「自信がない」と回答した結果は表1のようであった。表中に示した(1)～(12)は、領域「環境」の各内容に対応している。なお、自信の有無の回答には無回答者も存

在しているため、合計数が 88 人となっていないものがある。

表1 指導する自信 (N=88)

	自信 の順	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答
自信が ある (N=88)	1 番	11	11	25	11	9	1	13	1	4	1	0	1	0
	2 番	8	5	13	5	12	6	20	6	6	7	0	0	0
自信が ない (N=88)	1 番	2	2	0	0	3	8	2	2	3	5	43	16	2
	2 番	0	2	1	2	3	8	0	4	0	5	12	46	5

学生達が1番に指導する自信があるとあげた領域「環境」の内容は、「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」が25人(28.4%)と最も多かった。続いて「(7)身近な物を大切にする」が13人(14.8%)であった。

1番に回答した自信がある主な理由は、(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」では「実感しやすい」「自然の変化が目に見えて分かる」といった回答が最も多く(7人)、続いて「季節ごとの遊びを取り入れやすそうだから」といった回答が見られた(5人)。「(7)身近な物を大切にする」では、「私自身が物を大切にしよう意識している」といった回答が最も多く見られた(6人)。

一方、学生達が1番に指導する自信がないとあげた領域「環境」の内容は、「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」が43人(39.2%)と最も多かった。続いて「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」が16人(18.2%)であった。2番に自信がないとする学生の回答では、(12)の内容が46人(52.3%)と最も多かった。

1番に回答した自信がない主な理由は、「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」では「情報や施設がよくわからない」といった回答が最も多く(14人)、続いて「どのように教えたらよいか分からない」といった回答が見られた(11人)。「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」では、「国旗に詳しくない」といった回答が最も多く(10人)、続いて「どのように教えたらよいか分からない」といった回答が見られた(5人)。(12)の内容で、2番に自信がないと回答した学生達の主な理由は「どのように教えたらよいか分からない」といった回答が最も多かった(25人)。

3-2 環境の指導をするに当たっての気持ち

前期の授業終了時に、①～⑦の設問に対する保育者として環境の指導をするに当たっての現在の気持ちを4段階で選択させた結果は表2のようであった。なお、回答者数は3人が無回答であったため85人となっている。

表2 環境の指導をするに当たっての気持ち (N=85)

	非常にそう思う	そう思う	そうは思わない	ほとんどそうは思わない
①	0(0%)	31(36.5%)	49(57.6%)	5(5.8%)
②	3(3.5%)	46(54.1%)	30(35.3%)	6(7.1%)
③	1(1.2%)	16(18.8%)	60(70.5%)	8(9.4%)
④	4(4.7%)	49(57.6%)	28(32.9%)	4(4.7%)
⑤	6(7.1%)	54(63.5%)	23(27.1%)	2(2.4%)
⑥	3(3.5%)	51(60.0%)	29(34.1%)	2(2.4%)
⑦	2(2.4%)	56(65.9%)	24(28.2%)	3(3.5%)

各設問で、「そう思う」が多かったのは②46人(54.1%)、④49人(57.6%)、⑤54人(63.5%)、⑥51人(60.0%)、⑦56人(65.9%)であった。「そうは思わない」が多かったのは①49人(57.6%)、③60人(70.5%)であった。「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた数では⑤が60人と最も多く、「そうは思わない」と「ほとんどそうは思わない」を合わせた数では③が68人と最も多かった。

4. 考察

本研究の目的は、身近な環境との関わりに関する領域「環境」の12の各内容について、保育者志望学生が1年前期科目「環境」を学んだ時点で感じる指導する自信の有無について明らかにすることであった。

自信の有無について問う質問紙による調査結果では、1番に自信があるとあげた領域「環境」の内容は「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」が最も多く、続いて「(7)身近な物を大切にする」であったことがわかる。一方、1番に自信がないとする内容は、「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」が最も多く、続いて「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」であった。(12)の回答は、1番及び2番の回答を合わせると最も多かったことがわかる。理由の記述からは、内容(3)では実感しやすく自然の変化が目に見えて分かる内容であるため自信がもてていることがわかる。内容(7)からは、「私自身が物を大切にしよう意識している」と説明しているように、自身の心情から自信につながっていると考えられる。内容(11)の記述からは、情報や施設がよくわからないといった知識面やどのように教えたらよいか分からないといった指導の仕方について自信がないことがわかった。また、内容(12)でも「国旗に詳しくない」からといった学生の知識面やどのように教えたらよいか分からないことが原因していることがわかった。これまでの教育の中で、情報や施設、国旗についての知識を学生達は十分身につけてこなかったと考えることができる。さらに、内容(1)、(4)の自然に関わる内容に対する活動や(5)「身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。」といった内容では、自信がない学生も少ないが自信がある学生もい

ずれも1割程度である。保育を学ぶ学生の動植物に対する関心を探った清水（2018）は、動物名では一人の学生が記述できた最大数は82個、最小数は2個、植物名では一人の学生が記述できた最大数は32個、最小数は2個と大きな差が見られること、動植物名の回答者数の多い上位20種類は動物ではいずれもペット、家畜、動物園で見られるほ乳類であること及び植物では栽培植物が多く身近な自然に見られる動植物ではないことを述べている。また、昆虫を苦手と回答した学生は全体の約7割と多く、小動物に対しても接し方がわからないといった学生が多いことを述べている。こうした自然に見られる動植物名の知識が少ないことや接し方がわからないことが、学生の自信がある内容となっていない理由であると考えられよう。

気持ちを問う質問の調査結果では、「非常にそう思う」と「そう思う」を加えた場合多かったのは「⑤子どもの生活や遊びを中心に置いた授業ができると思う」が最も多く、続いて「⑦1年を見通して、計画を立て、教材や遊びを考えることができる」であったことがわかる。学生達は子どもの生活や遊びに対し理解していると考えており、自信につながっていたものと考えてことができる。このことは、学生の記述「授業で、季節についての変化のある遊びを知ることができたので自信がついた」からも伺うことができる。一方、「そう思わない」と「ほとんどそうは思わない」を加えた場合多かったものは、「③環境のどの内容の授業を受け持っても、うまくやっていけると思う」が最も多く、続いて挙げられていたものは「①子どもにわかりやすく授業することができると思う」であった。自信の有無を問う質問で、「情報や施設などに興味や関心をもたせる」、「国旗に親しむ」といった内容で指導する自信がないとする学生が多かったことがこうした結果として表れたものと考えてすることができる。情報や施設、国旗の内容についての知識を身につけられるよう検討することに加え、1年後期に開講されている「環境領域指導法」ではこのことを踏まえて指導方法の見直しをする必要があると考える。

5. おわりに

領域「環境」の12の各内容について学生の指導する自信の有無を調べた結果、事象を実感しやすく変化が目に見えて分かる内容や「私自身が物を大切にしよう意識している」と説明しているように学生自身が心がけている内容には自信があると考えていることがわかった。一方、情報や施設、国旗がよくわからないといった記述に見られるように学生自身が知識の不足を感じている内容や、どのように活動させたらよいか不安がある内容には自信がないことがわかった。領域「環境」のねらいを達成することのできる保育者を育成できるよう、今回の結果を十分考慮したシラバスの構築を図る必要があることが示唆された。

謝辞

本研究は2020-2022年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (課題番号：20K03269、研究代表：中島雅子) 及び2021-2023年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (課題番号：21K03008、研究代表：高垣マユミ) の助成を受けて行われた。感謝したい。加えて、調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝いたします。

著者の利益相反： 開示すべき利益相反はない。

註

- 1) 保育所保育指針（2017）では、各領域の内容を「ねらい」を達成するために子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものであると記述されている。また、幼稚園教育要領（2017）では、ねらいを達成するために指導する事項であると記述されている。本稿では、「内容」について環境に関わって経験する事項、ねらいを達成するために指導する事項と定義し記述している。
- 2) 指導については、1)を踏まえ「内容に対する保育の活動」とすることと定義し記述している。

引用文献

- 畑野裕子・大竹留美（2020）「保育内容「環境」の研究動向に関する一考察」『児童教育学研究』39, pp.193-205
- 菊地恵（2007）「保育内容「環境」の指導実践記録を通しての一考察－理論と実践力の結合による保育内容の指導法を目指して(1)－」聖徳学園短期大学研究紀要 37, pp.73-82
- 厚生労働省（2017）「保育所保育指針」
- 厚生労働省（2017）「幼保連携型認定こども教育・保育要領」
- 栗岡あけみ（2017）「保育内容：領域「環境」における授業内容の一考察－授業展開の実践より－」豊岡短期大学論集 14, pp.49-58
- 文部科学省（2017）「幼稚園教育要領」
- 中島寿子（2017）「保育内容環境についての再検討－モデルカリキュラムをふまえて－」山口大学附属教育実践総合センター研究紀要 44, pp.51-60
- 西山修・岡村幸代・中川智之・片山美香（2017）「保育内容「環境」の授業実践における環境概念の変容を捉える試み」岡山大学大学院教育学研究科研究集録 166, pp.31-40
- 西山修（2021）「保育内容「環境」の授業前において保育者志望学生が抱く環境概念の特徴」岡山大学教師教育開発センター紀要 11, pp.1-13
- 清水誠（2018）「保育内容「環境」の指導方法の改善－保育を専攻する学生の動植物に対する関心－」国際学院埼玉短期大学研究紀要第 41 号, pp.83-92
- 氏原陽子（2014）「授業「保育内容演習（環境）」に関する一考察」名古屋女子大学紀要 60（人・社）, pp.199-209

『保育者養成校における保育実習指導の在り方の一考察』

—教育・保育実習終了学生へのアンケート調査をもとに—

“A Study of Childcare Training Guidance at Childcare Training Schools”

-Based on a Questionnaire Survey of Students who have Completed Education and Childcare Training-

山下 佳香 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

本研究では、教育・保育実習を終えた学生にアンケート調査を行い、実習生の実習体験の具体及び実習園での指導状況を把握することによって実習指導の見直しを図り、より質の高い保育実習指導を構築すると共に、学生自身の主体的な学びを促し、保育者を目指す気持ちを高めることを目的とした。

キーワード: 幼児教育、実習指導、授業実践

1. はじめに

2011（平成23）年施行の保育士養成カリキュラム改正¹⁾では、「①保育指針の改定内容及び改定・見直しの背景を踏まえ、保育士養成や保育現場における諸問題に対応すべく保育士養成課程などの見直しを行う。その際、保育現場の実践や保育士の専門性を十分に踏まえた内容とする。②保育現場の実情を踏まえ、実践力や応用力をもった保育士を養成するために、実習や実習指導の充実を図り、より効果的な保育実習にすることが必要である。また、養成施設の増加に伴い、居住型児童福祉施設等における実習受け入れ施設の確保が大変難しくなっている実情を踏まえ、実習受け入れ施設の範囲や要件を見直す。（以下、省略）」等の基本的な考え方にに基づき、講義・演習科目の統廃合、実践的な演習科目の充実、実習関連科目の単位数増加などの変更が、保育士養成校で実施された。実習関連科目において、実際に保育現場に出向いて実習する保育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（以下、内容上Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを特別に区別する必要がなければ「保育実習」と総称）に、従来実際的な必要から含まれていた事前事後指導が、養成校内での事前事後指導のみ独立して保育実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（以下、内容上Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを特別に区別する必要がなければ「保育実習指導」と総称）となり、それぞれ演習2単位、1単位、1単位を付与されることになったのは特に大きな変更であった。その意図するところは、事前指導、あるいは事後指導の充実によって、実習に出る前に実習生らしい立ち振る舞いや技能不足を修正し、次の実習や就職に結びつける機会を持つことである。この科目「保育実習指導」新設により、養成校で伝統的に実施されていた事前事後指導を見直す必要に迫られた。

本学においては、この新カリキュラムの適用に際して、他大学の実習指導の時期・回数・教員体制・指導内容の工夫等の実態を把握し、教育課程編成委員会や教務委員会で実習指導の見直し

を図った。現在、学生は幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得するために、教育実習、保育実習を履修しなくてはならない。「幼稚園教諭免許」状を取得するためには、教育実習に係わる事前及び事後の指導で1単位、学外での実習で4単位、合計5単位が必要となる。また、保育士資格の取得について保育所での実習を2単位、保育所以外の児童養護福祉施設での実習を2単位、さらに実習に関する事前事後指導を1単位、合計5単位が必要となる。実習指導では、学生が学内での講義による知識と実習で体験した内容を結びつけ、「子ども理解」を大切にしながら実践力の育成を目指し、2020年度に実習体系の見直しを行った。実習時期や実習指導の内容について不断の見直しを図っているが、一層の改善のためには学生から実習体験に関する生の声を得ることが必要である。

そこで、実習生の実習への意識を高め、保育者を目指す気持ちの高まりにつなげるために、実習生の体験に基づいた実習指導内容の見直しを図ることを本研究の目的とする。

2. 方法

(1) 調査対象

国際学院埼玉短期大学（埼玉県さいたま市）幼児保育学科2年生98名（教育実習、保育実習を終了した学生）にアンケート調査を行う。

(2) 調査方法

質問紙によるアンケート調査

(3) 調査内容（①～⑦、⑨～⑪は選択肢より3つを選択）

- ① これまでのすべての実習の中で特に印象に残っていることは
- ② これまでの実習で特に嬉しかったことは
- ③ これまでの実習で特に学んだことは
- ④ これまでの実習で特につらかったことは
- ⑤ これまでの実習で特に苦勞したことは
- ⑥ これまでの実習で特に頑張ったこと・努力したことは
- ⑦ これまでの実習で特に達成感を味わったのは
- ⑧ 日誌は毎日平均どのくらいの時間をかけて書き上げたか
- ⑨ 日誌の書き方の中で特に指導を受けたことは
- ⑩ 実習で特に指導を受けたことは
- ⑪ 実習指導でもっと勉強をしたかったことは

3. 結果と考察

(1) アンケート結果

調査内容①～⑪までのアンケート結果を下記の表にまとめた

⑫ 表1. ①これまでのすべての実習の中で特に印象に残っていることは

責任実習	38人
子どもの成長を感じた	35人

部分実習ができた	33人
運動会の参加	30人
子どもとたくさん関わられた	29人
子どもから自分に寄ってきた	25人
子どもが自分を覚えてくれた・名前を呼んでくれた	23人
子どもから手紙をもらった	20人
保護者が自分を褒めてくれた	18人
手遊びで子どもがついてきた	7人
子どもの表情が明るくなった	7人
指導担当の先生が優しかった	7人
給食の援助の仕方を覚えた	5人
子どもの遊びの工夫を見た	4人
けんかの仲裁ができた	3人
けがをした時に子どもの対応をした	3人
環境構成の大切さを感じた	3人
日誌の記述について褒められた	3人

表2. ②これまでの実習で特に嬉しかったことは

子どもから自分に寄ってきた	68人
子どもから手作りのプレゼントをもらった	54人
責任実習の達成感	53人
先生に褒められた	43人
子どもが自分のことを好きと言ってくれた	30人
部分実習がうまくいった	17人
子どもの遊びの中に入れてくれた	12人
ピアノがうまく弾けた	9人
子どもが心を開いてくれた	2人
日誌の記述について褒められた	1人
就職の誘いを受けた	1人
保育中、保育を任された	1人

表3. ③これまでの実習で特に学んだことは

子ども一人ひとりへの接し方や言葉がけ、対応	48人
責任実習でクラスをまとめること・全体に目を向けること	42人
実習生としての言葉遣いや礼儀、意気込み	35人
子ども一人ひとりに向き合うことの大切さ	34人
子どもが理解できるような説明の仕方	30人
臨機応変な対応の大切さ	28人

子どもと全力で遊ぶこと	25人
日誌の中の「気づき」欄・「エピソード記録」欄への記録の大切さ	20人
子どもが興味を持てるような環境づくり	18人
子どもの興味が湧くような主活動の選定の仕方	15人
見通しを持った行動・援助の大切さ	14人
子ども同士で解決できるような援助の仕方	13人
子どもの発達段階に合わせた指導上の配慮	8人
色々な保育教材の種類	5人
保育技術（おもむつの交換の仕方、ピアノの弾き方、園で流行っている手遊びなど）	5人
自分自身の体調管理	5人
連絡・報告・相談の大切さ	4人
午睡の際の寝かしつけ方	3人
子どもとの関わり方	3人
指導担当の先生方の保育観	1人
絵本の読み聞かせの仕方	1人

表4.④これまでの実習で特につらかったことは

日誌の記録が毎日大変	24人
指導案の書き直し	19人
子どもとの接し方・言葉がけの難しさ	11人
園の先生方に話しかけるタイミング	10人
どのように動いたらよいのかわからない	10人
子どもとの関係性	7人
緊張してピアノが弾けない	7人
主活動の内容を何回も書き直した	6人
責任実習当日の活動時間配分の難しさ	5人
自分の思いが子どもに伝わらない	5人
わからないことを質問できない雰囲気	2人
子どもの成育歴上の問題点	2人
他校の実習生と比較された	2人
子どもたちとの別れ	2人
朝が早い	2人
掃除ばかり	2人
評価が悪かった	2人
子どもに関わらないでほしいと言われた	1人
子どもの個人行動記録を書くことになった	1人
手遊びのレパートリーが少なかった	1人

絵本の読み聞かせの仕方	1人
自由遊び保育で何をしたらよいのかわからなかった	1人
入浴介助	1人
宿泊実習でホームシックになった	1人

表5. ⑤これまでの実習で特に苦勞したことは

毎日の日誌の記録	33人
責任実習指導案立案	29人
責任実習の進め方	20人
ピアノで子どもの曲の弾き歌い	13人
子どもへの言葉かけ	8人
子どもと遊びの中で共感すること、受け止めること	6人
掃除の多さ	2人
寝かしつけ方	2人
実習中の早起き	1人
初めてのことばかりで失敗の連続	1人
絵本の読み聞かせの回数が多かったこと	1人
自分の動き方	1人
実習初日の動き方	1人
乳児との関わり方	1人
製作遊びに用いる教材の準備	1人

表6. ⑥これまでの実習で特に頑張ったこと・努力したことは

責任実習	38人
ピアノ	18人
日誌の記録	17人
子ども一人ひとりに個別に関わることに	11人
部分実習	7人
責任実習指導案の立案	7人
先生の動きを見て、前もって行動すること	6人
常にモチベーションアップすること	5人
様々な子どもの様子を把握すること	4人
実習生として言葉遣いや礼儀	2人
すべての年齢の保育を体験すること	1人
環境構成	1人
声を張ること	1人
運動会練習	1人

表 7. ⑦これまでの実習で特に達成感を味わったのは

責任実習を終えたとき	94 人
先生に褒められたとき	13 人
子どもとの関わり	8 人
部分実習（絵本の読み聞かせ）	7 人
子どもたちにお礼のプレゼントを作ったとき	4 人
日誌をすべて書き終わったとき	1 人
園庭にある一輪車に乗ることを練習したとき	1 人
運動会が終了したとき	1 人
子どもたちをまとめられたとき	1 人
子どもたちの前でピアノがうまく弾けたとき	1 人

表 8. ⑧日誌は毎日平均どのくらいの時間をかけて書き上げたか

30 分未満	2 人
30 分以上～1 時間未満	13 人
1 時間以上～2 時間未満	14 人
2 時間以上～3 時間未満	49 人
3 時間以上～4 時間未満	19 人
4 時間以上	1 人
終わらずに翌日提出ができなかった	0 人

表 9. ⑨日誌の書き方の中で特に指導を受けたことは

気づき	60 人
保育者の動き	39 人
子どもの活動	29 人
エピソード記録	27 人
実習生の動き	14 人
本日の反省・課題	13 人
環境構成	10 人
考察	8 人
全体の反省・今後の課題	6 人
時間	5 人
誤字脱字	3 人
日誌の量をたくさん書くこと	2 人
概要	1 人
一日の目標	1 人
字を丁寧に書くこと	1 人
文語体で各書くこと	1 人

表 10. ⑩実習で特に指導を受けたことは

実習生としての積極性	53 人
子どもとの接し方	44 人
子どもへの言葉のかけ方	40 人
責任実習の主活動についての計画の立て方	38 人
日誌の書き方	29 人
子どもとの遊びの中での関わり方	20 人
絵本の読み聞かせの仕方	18 人
素話や導入の仕方	15 人
実習生としての振る舞い	6 人
部分実習の内容や指導案の立案	6 人
コミュニケーション力	5 人
ピアノの弾き歌い	4 人
保育室内の環境づくり	3 人
手遊びの仕方	3 人
掃除の仕方	2 人
園庭の環境設定（砂場の掘り起こし方や園庭整備など）	2 人
反省会	1 人
連絡・報告・相談の徹底	1 人
実習生としての身だしなみ	1 人

表 11. ⑪実習指導でもっと勉強をしたかったことは（複数回答可）

日誌の書き方	118 人
気づき	33 人
考察	26 人
エピソード記録	24 人
保育者の援助	11 人
子どもの活動	5 人
感想・考察	18 人
概要	1 人
手遊びのレポーター	45 人
遊びのレポーター	38 人
主活動のレポーター	35 人
子どもとの接し方	25 人
指導案の立案（責任実習）	20 人
ピアノの弾き歌い	15 人
絵本の読み聞かせ	13 人
保育教材のレポーター	10 人

実習生として気をつけること	4人
実習生としての振る舞い	2人
書類の書き方	1人
オリエンテーションでの心構え	1人

上記の①～⑩のアンケート結果から、上位結果について一つずつ考察していく。

①これまでの実習で一番印象に残っていることは「責任実習」である。責任実習や部分実習の当日、緊張しながらも子どもたちの前で自分が準備してきたことを必死に行う中、子どもたちが楽しんでくれたことが学生にとって達成感となり、実際に行えたことの嬉しさから自信につながり、特に印象に残った体験であるといえる。

②これまでの実習で特に嬉しかったことは「子どもから自分に寄ってきてくれた」である。近年、生活の中で利便性や合理化を図ることを第一優先にしている状況があり、人とのコミュニケーションを直接取ることが少なくなる傾向が反映されているようだ。本学の学生の様子を見ても、人とのかかわりはSNSに頼っていることが多く、時間を有効に使えると考えているようだ。直接やり取りをするよりもSNSの方が自分の気持ちを伝えやすく、時間も有効に使えるそうだ。しかし、保育者は「対人援助職」であり、子どもにとって初めての先生である。人と人とのつながりの中で生まれる「愛着関係」や「信頼関係」の構築が子どもたちの「自己肯定感」や「生きる力」に繋がるのである。学生は初めての实習で、子どもたちとかかわるために表情や姿勢、言葉かけを積極的に行うことを心がけたことから、子どもたちと沢山関わることができ、子どもたちが自分を求めてくれることに繋がったのであろう。学生は子どもたちとの心地よい関係から、人と接することの楽しさを感じているのである。

③これまでの実習で一番学んだことは「子ども一人ひとりへの接し方や言葉かけでの対応」である。②でも示したように、学生が慣れない実習園の環境の中で、子どもたちと積極的にかかわろうと努力をしている中で、一人ひとりの子どもに対しての接し方を考えるようになったことから、この結果に繋がったと考えられる。

④これまでの実習で一番つらかったこと、⑤これまでの実習で一番大変だったこと（苦労したこと）は両項目共に「日誌の記録が毎日大変」が圧倒的に高い数値を表している。学生にとって「日誌を書く」ことに対する抵抗感を、実習の中で一番強く感じていることが分かる。実習の目的の一つは「子ども理解」であり、「子ども理解」をするためには、子どもたちにと積極的にかかわることや子どもたちとかかわり方を考えることが大切である。日誌を書くために「子ども理解」をするのではなく、「子ども理解」をするために「日誌」を書くわけである。日誌を書く目的をきちんと伝えていくことが実習指導者には求められることである。

⑥これまでの実習で特に頑張ったこと・努力したこと、⑦これまでの実習で特に達成感を味わったことは「責任実習」が多い。二年次の保育所実習・幼稚園実習は共に「責任実習」を課している。日数に限りがある中で、季節感や時期、子どもの発達段階に合わせ、子どもの興味・関心が持てるような主活動の内容を考え、試作品などを作成し園に2～3案持参する。そのため、学生達は図書館に通い参考書を調べながら自主的に指導案を作成するなど、かなり主体的な学習を行っている。学生は指導案を立案し、責任実習当日まで主活動内容の立て直しや、指導案の書き直し、製作物の準備など、いくつものプロセスを乗り越えるからこそ、達成感や充実感を味わい

努力したことに自信を持ち、次への意欲に繋がるのではないだろうか。

⑧実習生にとって、日誌を書くことは大きな課題の一つとなっている。「実習＝日誌」と言っても過言ではない。そこで、日誌について学生にアンケートを取った。⑧日誌は毎日平均何時間かけて書き上げましたかの質問で一番多かったのは、1.5時間～2時間で次に2.5時間～3時間、次に2時間～2.5時間であった。実習初めての一年次では、平均4時間～5時間かけて日誌を書いていく中で、徐々に子どもたちの様子の捉え方や、効率よく書く方法なども習得していったようである。

⑨日誌の書き方で特に指導を受けたことは「気づき」である。日誌の中での「気づき」そのものの意味が不十分であったり、「気づき方」を理解していなかったり、実習生なりの「気づき」があったとしても、それを実習日誌に適切に記録できていないことに問題がある。子どもたちの成長を見た目や成果で判断するのではなく、一人ひとりの育ちのプロセスを大切にすることこそが「子ども理解」であり、保育者として大切なことではないだろうか。そのため、子どもの表面に見える表情や姿から子ども一人ひとりがどのような思いなのか、またその実態の意味を考えることによって、子ども一人ひとりの理解につながり、どのような援助が大切なのか探ることができる。と考える。

⑩ 実習で特に指導を受けたとしては、「実習生としての積極性」「子どもへの接し方」「子どもへの言葉のかけ方」「責任実習の主活動の立て方や指導案立案」が順に多かった。やはり、子ども一人ひとりに関わることは保育現場でなければならないことである。実習生自身が子どもと積極的に関わり、子ども一人ひとりの気持ちを理解することが保育者に一番求められることを学ぶことが大切である。子どもの気持ちを理解することによって、はじめて援助を考えることができ、子どもの主体性を大切にすることに繋がる。そのことが、子どもの主体性を大切にしたい指導案を考えることができるのである。

⑪ 実習指導でもっと勉強したかったことの回答としては、特に多かったのは「日誌の書き方」、次に「手遊びのレポーター」「遊びのレポーター」「活動のレポーター」ある。「実習＝日誌」と感じている学生は多く、日誌を書くことが負担になり、実習に対して消極的になってしまっている学生もいる。特に、日誌中の「気づき」や「考察」について記入することに難しさを感じている学生も多い。子どもたちに積極的に関わったからこそ、子ども一人ひとりの姿から、子どもの良さや成長のプロセスを感じることができ、「気づき」や「考察」が生まれてくるのである。そこから、保育者としての援助のあり方を考えることに繋がるはずである。

4. 全体考察～今後の実習指導で大切なこと～

アンケートの結果全体から、実習における学生の実態が明確になった。その中で、特に項目の⑪の回答を踏まえて、今後の実習指導のあり方を検討したい。

4-1. 各教科の学びを統合した実習指導を展開する

アンケート結果より、学生は実習園から指導を受けた「日誌の書きかた」や「指導案の書き方」「あそびのレポーターを増やす」ことを実習指導に求めていることがわかる。現在、保育実習指導以外の他教科で「教材指導」や「実技指導」、「子ども理解」や「遊びのレポーターを学ぶ」、「ピアノ指導」や「絵本の読み聞かせ指導」などを行っている。これからは各担当者同士で、学生にとってどのような時期にどのような授業内容を、どのような方法で伝えていくこ

とが良いのか協業協働体制をとりながら統合的な実習の学びができるよう指導内容の検討を図っていきたい。保育士養成に係る科目は（各科目名などにつき省略）、養成校においては単体で存在するものではなく、常に生活に基づいた具体的な体験の中で総合的に存在するものである。養成校では、このようなことを常に念頭に置きながら、学生指導を展開していくことが重要であることを再確認した。

4-2. 学生の実態を踏まえた、効果的な日誌の書き方の指導を工夫する

実習生は「実習＝日誌」と思うくらい、その存在は学生にとって大きいと言える。近年の学生たちには、目を見たことを自分なりに解釈して、それを表現するということを非常に苦手とする様子が見られる。日常生活の中でもパソコンやスマートフォンへの入力が、学生にとって「書くこと」であり、文字を紙に手書きする機会は減ってきている。このため、漢字の間違いにも気づかないことが多いというのが現状である。文章を書くことを苦手として、すぐにできない、やりたくないという気持ちが湧いてしまう学生も多い。そのため、実習指導の中でいきなり日誌指導をするのではなく、保育用語の漢字の書きとりや文章の立て方などを行いながら、日誌を書くための準備をすることが必要であると思われる。そして、心情的に日誌を書きたくなるような気持ちを高めることが大切であろう。

日誌指導をする際の内容の順番として、下記のようなことを自由に思いつくままに書いていく中で、徐々に子どもの実態を捉えながら考察していくことができるのではないだろうか。

- ・子どもの遊びを見る中でどんなことを感じたのか
- ・子どもの遊びの中で面白かったことは何か
- ・子どもの遊びの中で不思議に思ったことは何か
- ・保育園の様子について気づいたことは何か

4-3. 子どもたちとの関わりの経験を踏まえた指導案となるよう指導する

子どもとのかかわりの経験を踏まえた充実した指導案を作成するために、保育実習前に1～2日間、保育所でのボランティア活動を実施することが効果的であると考えられる。その中で子どもたちがどのような生活の姿や遊びの様子があるのか知ることで、具体的にどのような遊びを行うか考えることができるのではないだろうか。グループになって話し合いをし、何歳児はこんな遊びをしていた、何歳児はこんな様子だったということを話し合うことで具体的なイメージが湧き、主体的に指導案を考えることにつながるのではないかと考える。そしてクラス全員で出し合った主活動を発表し合い、友達の意見を取り入れながら自分の主活動の見直しもできるのではないかと考えた。

4-4. 学生自身の心を揺さぶる、直接体験を重視した授業展開を工夫する

保育者は、子どもの生活そのものを支える存在である。そのため、子どもと共に生活する中で「生きる力」を伝えていくことが大切である。「生きる力」とは「生活力」であり、人として人とかかわりながら様々なことを経験する中で心が成長することである。保育者を目指す学生自身が日ごろから心を動かす体験をすることが、心の成長を促すことに繋がるのではないだろうか。そこで、普段の授業から様々な直接体験ができる授業を行うことによって、学生自身が直接体験することの楽しさを味わいながら、人と人とがコミュニケーションを取ることの楽しさや面白さ

を感じる事ができる。直接体験する中で、「こうしたらもっと面白い」と発見する喜びから「やってみたい」と意欲や挑戦する気持ちが湧き、徐々に工夫することや試行錯誤、達成感を味わっていくことができるこのプロセスこそ子どもたちの「遊び」であり、「遊び」はプロセスの中で心を揺さぶられることによってより充実するわけである。子どもたちを支える保育者が、この心の成長のプロセスを体験していなければ子どもの気持ちを理解することは到底難しいであろう。「子ども理解」のために、保育者自身が「遊び込む」ことが必要なのである。

5. おわりに～学生の主体的な学びに向けて～

保育士養成課程を選んだ学生の中には、心から子どもを好きな学生だけではなく、就職に結びつく選択肢はこれしかない、家族から「保育士資格を取得すると将来的に便利」と言われ不本意ながら進学してきた学生もいる。そのような学生たちの劣等感情は強いものがあり、特に二年制課程の養成校で学んでいる学生にそのような傾向は強く、「大学で学ぶことそのものや、自分の学力に関して、絶望と無力感を抱いているといっても良い」と瀧澤は述べている²⁾。

自信のない保育者が自身の育ちの実感を持ってないまま保育するのは、子どもの育ちを信じて見守れない親が子どもに向き合うのと同様、保育に対する基本軸が定まらず、保育者としての成長にも影響が出る。また、その結果として、保育の対象である子どもへの影響も懸念される。瀧澤は「学ぶことで自分が成長できた、学ぶことも悪いものではない、自分も捨てたものではない、と実感できるような教育ができればその学生の人格にとって、前向きな影響を与えるのではないか」と述べられている³⁾。このような方向で指導することができれば、子どもたちに学ぶことの意義を伝えることのできる保育者に成長するのではないだろうか。そのような前向きな転換の機会として、保育現場での予備観察実習の実施が考えられる。それによって様々な発見や刺激を「気づき」につなげ、子どもとかかわる楽しみや学びに結びつける「体験＝過程＝プロセス」を学生自身が感じられるようにする。養成校の教員にはそのような支援や学びの手立てを学生に提供することが求められている。実習指導に当たる教員は、学生のプロセスを暖かく辛抱強く受け止め、その日々の学びを学生自身が振り返り、主体的に自分を磨いていく道標を示していくことが心得であり課題であると思う。

今回のアンケート結果は保育者養成校2年生の学生を対象としたため、すべての保育者養成指導内容の見直しとは言い難い。今後、四年制の大学の学生も対象としたアンケート調査を行い、より良い保育者養成における実習指導内容を考えていきたいと強く感じる。

著者の利益相反： 開示すべき利益相反はない。

謝辞

本研究をおこなうにあたり、本学2年生の学生にアンケート調査の協力を頂き、快く協力いただきましたことに感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 保育士養成課程等検討会「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)案」『厚生労働省「保育士養成課程等検討会」資料』(2010)、367 - 377頁
- 2) 滝澤真毅「保育者の養成課程で保育者の『資質』を育てられるか」『全国保育士養成協議会第50回

参考文献

- 津田尚子他「保育実習指導の事前指導の現状についての一考察」関西福祉大学紀要第18号(2014)95 - 103
- 小林邦江他「実習事前事後指導に関する一考察 ー実習ハンドブック作成の過程からー」
愛知江南短期大学紀要、39(2010)173 - 180
- 佐藤 恵「保育実習指導(施設)シラバスにおける指導の現状と課題」東京未来大学研究紀要12(2017)
105 - 111
- 塩津恵理子 山口香織 「保育実習指導のあり方を考える I ー実習先(保育所)のアンケート調査から
見えてきたものー」 神戸親和女子大学研究紀要36巻(2017)
- 全国保育士養成協議会 平成29年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業(厚生労働省)
『保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究』
- 佐藤賢一郎著『保育所実習の事前・事後指導』北大路書房 (2017)
- 増田まゆみ・小櫃智子編著『保育園・認定こども園のための保育実習指導ガイドブック』(2018)
- 全国保育士養成協議会『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2 「協働」する保育士養成』(2018)

『「保育内容：表現」における音楽表現領域・造形表現領域・身体表現領域の実技試験の実践と学生レポートの分析について』
**Musical Expression Area, Modeling Expression Area, in
 "Childcare Content: Expression" Practical Exams in the Area
 of Physical Expression and Analysis of Student Reports**

山下 佳香 古木 竜太 越智 光輝

国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

本学の領域「表現」の授業は、保育現場における音楽表現・造形表現・身体表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項について学び、保育者に求められる「感性」「創造力」「思考力」を養うことに重点をおいている。受講学生が授業でどのようなことに気づき、具体的に何を学んだのか、15回目の最終授業で実技テストを行い、自分や他学生のパフォーマンスに関する内省記述を試みた。

実技試験実施後の内省記述について、テキストマイニングによる分析を行った結果、学生は表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項として、「子どもが主体となるような活動の展開」や「活動の工夫」を意識していたことがわかった。

キーワード: 幼児教育、五領域、授業実践

1. はじめに

2017（平成 29）年 3 月に改訂された「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」では、領域「表現」において「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」^{1) 2)} ためのねらいについて、1 歳以上から 3 歳未満児まで、3 歳以上児から就学前まで、それぞれについて次のように示されている（表 1）^{3) 4)}。

表 1 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の領域「表現」におけるねらい

1 歳以上から 3 歳未満児
<ul style="list-style-type: none"> ・身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 ・感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 ・生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。
3 歳以上児から就学前
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

このように、子どもの年齢や発達段階に合わせたねらいや内容となっており、より子ども一人ひとりの「感性」や「表現する力」、「創造力」を育むことの大切さを感じる。

昨今、多様な保育ニーズに対応できるよう保育内容、保育者の質の充実が重要になってきており、幼稚園教諭・保育士には各種の多領域に渡る専門的な実践力が求められている。保育活動を様々に展開し、かつ実践力を備えた保育者を養成するために、養成校では各科目の専門性に重点をおきつつ、横断的に連携させたクロスカリキュラムでの活動を実践することは、「保育における総合的な実践力養成の観点から重要である」⁵⁾と智原らによる研究から報告されている。中でも表現領域に関しては、子ども一人ひとりの思いを受け止め、感性豊かな表現活動に発展できるよう、複数に渡る総合的な表現能力の習得が必要となってくる。

保育者養成校である本学においては、領域「表現」に関連した複数の科目が開講されているが、表現活動の三領域である音楽表現、造形表現、身体表現の基礎的な知識を学ぶ科目として、学生は1年次に「表現」を履修する(図1・2)⁶⁾。

シラバスの情報	
ディプロマポリシー	
○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性	
授業の概要 (7行まで)	テキスト (3行まで)
表現活動の3領域である「音楽表現」、「造形表現」、「身体表現」の基礎的な知識を学ぶ。特に幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「表現」に示されている、ねらいおよび内容を理解し、保育現場で実践されている表現活動について理解を深める。	①文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 ②厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館
	参考図書 (6行まで)
	①井口太代表編者：「新・幼児の音楽教育」朝日出版社 ②花原幹夫編著：「保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 表現」北大路書房、2006年 ③花篤實、岡田愨吾編著：「新造形表現理論・実践編」三見書房、2009年
授業の到達目標 (7行まで)	授業時間外学習 (6行まで)
本科目を通じて、保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項について学ぶ。また、本科目の学習内容を踏まえ、「音楽表現領域指導法」、「造形表現領域指導法」、「身体表現領域指導法」の専門技能と保育実践力に繋げる知識を身に付ける。	参考図書①のpp26-31(第2次)、pp56-61(第3次)、pp62-67(第4次)を読んでおくこと。第10~14次は参考図書②の該当頁を読んでおくこと。
成績評価の方法 (5行まで)	課題に対するフィードバック等 (3行まで)
学習記録(30%)、実技試験(70%)により総合的に評価する。	毎回の授業終了後に内省記録を提出する。

図1 「表現」シラバス(その1)

授業計画		
週	テーマ (2行まで)	学習内容 (2行まで)
1	乳幼児期における表現活動の意義	幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づいた乳幼児期における表現活動の意義「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「表現」の箇所を読む(古木竜太)
2	音楽的表現活動(1)	子どもの音楽的発達段階と保育現場における歌唱導入法について(越智光輝)参考図書①のpp26-31を読んでおく
3	音楽的表現活動(2)	オルフの音楽教育について(越智光輝)参考図書①のpp56-61を読んでおく
4	音楽的表現活動(3)	コダーイの音楽教育について、ハンガリーの実践ビデオの視聴、「わらべうた」の学習(越智光輝)参考図書①のpp62-67を読んでおく
5	歌唱指導における導入	歌唱導入の留意点について、先行研究を通して学ぶ(越智光輝)
6	五領域：表現(造形表現活動)とは	乳幼児にとって表現活動(造形活動)の意味や考え方(山下佳香)
7	乳児の造形表現活動から見られる育ちの姿	保育現場における乳児の造形表現の姿から育ちの姿を考える(山下佳香)
8	幼児の造形表現活動から見られる育ちの姿	保育現場における幼児の造形表現活動の姿から育ちのつながりを考える(山下佳香)
9	乳幼児の造形表現を高める造形活動	乳児・幼児が意欲的になれるような造形表現活動を考える(山下佳香)
10	乳幼児の造形表現を高める援助・環境構成	乳児・幼児が表現の楽しさや面白さを主体的に感じられるような保育者の援助(山下佳香)
11	身体表現の特性	日本と他国の民族性から考える身体表現の特徴について(古木竜太)
12	子どもの発達と身体表現	乳幼児の発達段階における身体表現の出現、表現の発達について(古木竜太)
13	身体表現活動の実践	季節や行事に関連する手遊びの実践、動き・見せ方の工夫について(古木竜太)
14	園行事の身体表現活動	運動会遊戯や表現発表会における身体表現活動の指導・援助法について(古木竜太)
15	音楽・造形・身体表現活動の実践	これまでの学習を踏まえ、保育現場における望ましい表現活動の考察し、実践する(実技テスト)(古木竜太)(越智光輝)(山下佳香)

図2 「表現」シラバス(その2)

本授業は、1年次の前期に開講している科目であり、時期的にも保育の基礎を学ぶ段階といえる。専門技能と保育実践力をより高めていくために、15回目の授業において実技試験を実施し、学生は3領域の表現の分野から一つを選択する。そこで学んだ内容が、二年次で履修する「音楽表現領域指導法」「造形表現領域指導法」「身体表現領域指導法」へと繋がる知識を身に付けるために重要であると考えられる。

そこで本研究は、学生がシラバスの到達目標に示す「保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項」、また表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項として「子どもが主体となるような活動の展開」や「活動の工夫」をどのように意識して学んだのか、実技試験実施後の内省記述(テキストマイニングによる分析を行い、授業アンケートの結果)から論考することを目的とする。

2. 方法

2-1 実技試験の実施内容

筆者らが担当している「表現」の15回目（最終授業）に実施した実技試験の内容と評価項目を表2に示した。これらは主に音楽表現はピアノの弾き歌い、造形表現はペープサート、身体表現は手遊びの実演を評価するものだが、三領域の表現に共通する項目として、「導入」＝「始める前の声かけ」、「活動のまとめ」＝「まとめの声かけ」を設けた。この実技試験のねらいは、実習生として求められる保育スキルの向上、現状の課題を見いだすことである。

表2 実技試験の内容と評価方法

【音楽表現分野】
◎実技試験内容：幼児を対象とした子どもの歌を1曲、弾き歌いする。 (始める前の声かけ～弾き歌い～まとめの声かけまで)
◎評価方法：①始まる前の声かけにおける言葉の選びかた ②楽しそうに演奏できているか ③弾き歌い後の声かけにおける言葉の選びかた ※) ピアノ伴奏の内容については評価の対象としない。
【造形表現分野】
◎実技試験内容：折り紙ペープサート（段ボールシアター）を作成し演じる。 (始める前の声かけ～ペープサート～まとめの声かけまで)
◎評価方法：①子どもたちが見たくなるような声かけ ②役になりきって楽しく演じているか ③声の大きさやテンポやスピードなど内容に合わせて演じているか ④子どもたちの方を見ながら演じているか ⑤演じ終わった後の声かけ
【身体表現分野】
◎実技試験内容：保育現場で幼児を対象とした手遊びを1つ実践する (始める前の声かけ～手遊び～まとめの声かけまで)
◎評価方法：①声の大きさ、聞き取りやすさ ②歌い方・テンポ ③手の動かし方 ④保育者としての身だしなみ

2-2 テキストマイニングを用いた実技試験後のレポート分析

実技試験を終えた学生に対して、自分や他学生のパフォーマンスを振り返るレポート課題を提示した。提示した内容は、①自分のパフォーマンスについて（努力したところ、工夫したところ、反省点や課題など）、②他者のパフォーマンスについて（参考にしたいと思ったことなど）の2項目とした。なお、このレポート課題は、本学において新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として講じていた、「短縮対面授業およびレポート課題」のうちの「レポート課題」（通称「30分課題レポート」）として、提示したものである。

2-3 令和3年度前期領域「表現」の実技試験の対象と授業アンケート結果

学生は、音楽表現、造形表現、身体表現分野のうち一つを選択して実技試験を行った。本論で対象にしている令和3年度の受講学生が選択した分野の内訳は、音楽表現が17名、造形表現が21名、身体表現が57名であった。令和2年度より、最終授業で実技試験を実施するようにしたが、令和2年度の学生が選択した分野の内訳は、音楽表現が18名、造形表現が65名、身体表現が43名であった。

3. 結果

3-1 テキストマイニングを用いた実技授業後のレポート分析

実技試験を終えた後、学生に対して、①「自分のパフォーマンスについて、努力したところ、工夫したところ、反省点や課題など」、②「他の仲間のパフォーマンスを見て参考にしたいと思ったことなど」というレポートを課した。そして、そのレポートの記述内容を「株式会社 User Local」社が提供するテキストマイニング無料ツールで分析した⁷⁾。

(1) 自分のパフォーマンスについて

図3は「自分のパフォーマンスについて、努力したところ、工夫したところ、反省点や課題など」という設問に対して記述内容をワードクラウドによる分析で示したものである。ワードクラウドとは、出現回数が高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを示したものである。図3では、「子ども」「工夫」の出現回数が多く、子どもの前でピアノやペープサート、手遊びを実演するにあたり、どのような工夫が必要であるのか学生自身が自らのパフォーマンスを内省している様子がワードクラウドに示されている。次いで「問いかける」「導入」「緊張」という単語の出現回数も多く、学ばせたい保育スキルについて、学生は実技試験を経験することで学び得ようとしていた。これは授業を担当した筆者らが期待する学生の到達目標であった。

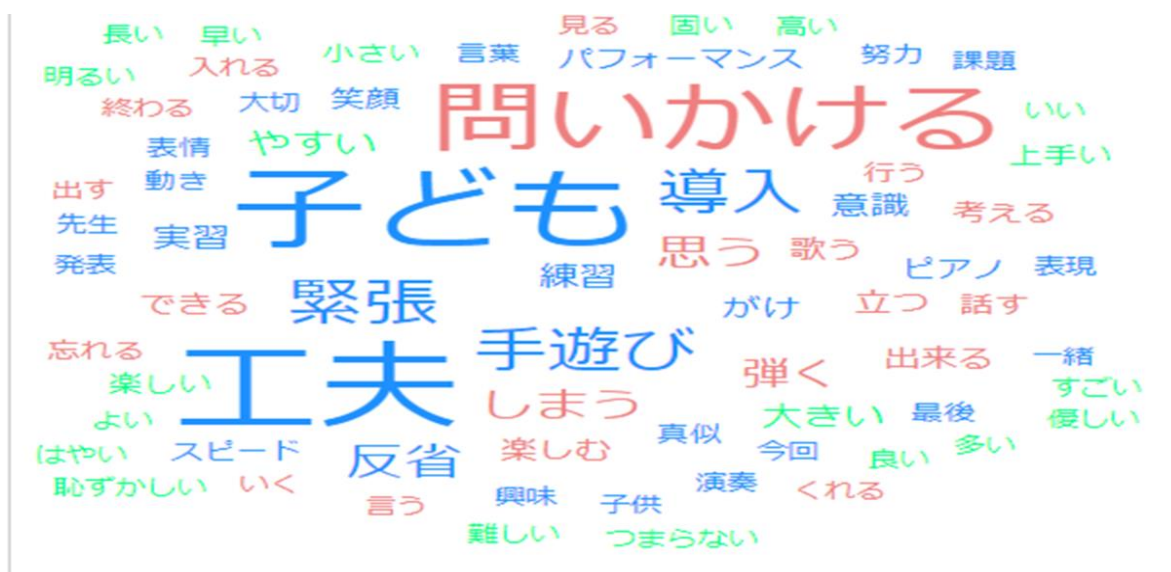


図3 テキストマイニング分析によるワードクラウド（青字：名詞／赤字：動詞／緑字：形容詞）

（「自分のパフォーマンスについて、努力したところ、工夫したところ、反省点や課題など」の記述内容を分析した）

また、表3は「スコア」を示したものである。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。改めて、表3のスコアが高い語句に着目すると、名詞では「工夫」「子ども」、動詞では「問いかける」、形容詞では「やすい」「大きい」が抽出された。これらの語句は、実技試験において学生が特に意識していた事柄を示唆する結果といえる。

表3 「自分のパフォーマンスについて、努力したところ、工夫したところ、反省点や課題など」に関するスコア

■名詞	スコア	出現頻度	■動詞	スコア	出現頻度	■形容詞	スコア	出現頻度
子ども	203.93	135	思う	17.24	176	やすい	9.18	39
手遊び	85.40	122	しまう	17.19	103	大きい	7.83	31
緊張	88.14	67	できる	5.17	75	楽しい	2.97	28
工夫	218.57	65	出来る	4.36	40	良い	1.29	28
導入	86.88	56	考える	3.80	39	上手い	3.90	15
反省	53.79	44	言う	0.81	35	いい	0.13	14
練習	19.19	41	見る	0.74	34	小さい	1.83	11
意識	18.52	36	歌う	4.56	29	すごい	0.29	10
言葉	5.88	34	いく	1.22	27	早い	0.27	9
最後	4.80	27	楽しむ	5.22	26	難しい	0.45	7
笑顔	8.51	25	問いかける	57.16	23	多い	0.11	6
発表	2.93	24	終わる	1.05	21	よい	0.07	5
努力	6.84	19	話す	3.17	20	恥ずかしい	0.46	5
先生	1.50	17	立つ	5.03	20	固い	2.34	4
課題	5.26	17	弾く	11.36	19	高い	0.04	3
動き	7.57	17	出す	1.23	19	はやい	0.21	3
ピアノ	9.27	17	くれる	0.40	18	つまらない	0.20	2
実習	19.56	16	行う	1.47	18	明るい	0.12	2
かけ	19.83	15	忘れる	1.56	18	長い	0.04	2
今回	1.38	15	入れる	0.79	14	優しい	0.05	2
パフォーマンス	11.62	14	つける	1.21	14	嬉しい	0.02	2
表情	6.80	14	行く	0.18	14	硬い	0.36	2
大切	2.41	13	持つ	0.50	13	くさい	0.21	2
真似	7.27	12	覚える	1.33	12	細かい	0.30	2
興味	1.66	12	作る	0.35	12	遅い	0.04	2
表現	2.63	12	出る	0.20	12	美味しい	0.01	1
スピード	5.83	12	分かる	0.74	12	づらい	0.05	1
一緒	0.53	11	始める	0.70	11	おかしい	0.04	1
子供	0.84	11	間違える	2.12	11	近い	0.02	1
演奏	3.22	10	もらえる	1.39	10	くい	0.01	1

(2) 他者のパフォーマンスについて

表4は「他の仲間のパフォーマンスを見て参考にしたいと思ったことなど」という設問に対してレポートした記述内容をワードクラウドによる分析で示したものである。これを見ると、名詞の「手遊び」「子ども」「導入」、動詞の「問いかける」という言葉の出現回数が多いことがわかる。「手遊び」の出現回数が多いのは、全学生のうち半数以上(57/95名)の学生が手遊びの実技試験を選んだためと考えられる。また、「導入」と「問いかける」の出現回数が多い理由として、学生はピアノ弾き歌いやテープサート、あるいは手遊びの実演そのものよりも、どのようにして子どもたちに話しかけ

るのか、そして、どのように活動を進めて行くのかという「導入」の方法に着目して、仲間のパフォーマンスに注目していたと考えられる。

表4は他者のパフォーマンスに関する記述のスコアを示したもののだが、図3と同じく名詞「導入」、動詞「問いかける」、形容詞「大きい」という単語のスコアが高い。したがって、学生は他者のパフォーマンス、工夫している点や参考にしたい点について、「導入」や「問いかけ」に着目していることが明らかになった。

表4 「他の仲間のパフォーマンスを見て参考にしたいと思ったことなど」に関するスコア

■名詞	スコア	出現頻度	■動詞	スコア	出現頻度	■形容詞	スコア	出現頻度
手遊び	64.40	92	思う	12.75	151	いい	0.47	27
子ども	67.90	70	見る	1.47	48	楽しい	2.38	25
導入	79.48	53	できる	1.64	42	大きい	5.18	25
参考	28.55	39	言う	0.32	22	やすい	3.30	23
パフォーマンス	25.34	22	いく	0.81	22	良い	0.42	16
言葉	2.29	21	感じる	2.31	20	すごい	0.57	14
発表	2.05	20	出来る	0.71	16	よい	0.27	10
笑顔	4.55	18	問いかける	24.02	13	多い	0.30	10
上手	5.01	16	しまう	0.25	12	高い	0.11	5
先生	1.17	15	聞く	0.35	12	明るい	0.70	5
工夫	22.19	14	学ぶ	2.45	11	凄い	0.13	4
表現	3.07	13	使う	0.23	11	素晴らしい	0.21	4
子供	1.17	13	読む	0.34	10	新しい	0.05	3
緊張	3.47	11	作る	0.20	9	にくい	0.17	3
動き	3.34	11	歌う	0.46	9	長い	0.08	3
大切	1.44	10	考える	0.16	8	小さい	0.06	2
実習	7.27	9	合わせる	1.32	8	うまい	0.04	2
真似	4.29	9	見える	0.27	7	っぽい	0.03	2
絵本	6.10	9	楽しむ	0.40	7	上手い	0.07	2
質問	0.82	8	答える	1.05	7	細かい	0.30	2
仕方	0.95	8	行う	0.23	7	無い	0.02	2
興味	0.75	8	活かす	2.49	6	優しい	0.05	2
気持ち	0.37	8	聞き取る	9.51	6	早い	0.01	2
仲間	1.89	8	持つ	0.11	6	面白い	0.01	1
勉強	0.30	7	分かる	0.19	6	暗い	0.05	1
最初	0.48	7	動かす	1.86	6	茶色い	0.58	1
遊び	0.51	6	行く	0.03	6	見づらい	1.00	1
意識	0.60	6	弾く	1.30	6	遅い	0.01	1
部分	0.51	6	覚える	0.34	6	低い	0.02	1
保育	2.38	6	頑張る	0.14	6	づらい	0.05	1

3-2 令和3年度前期「表現」の授業アンケート結果について

全15回の授業が終了した後、全学的に実施している授業アンケートを行った。「表現」の履修学生は95名、回答者数86名、回答率は90.5%だった。設問Ⅰは「(1)授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた」「(2)授業の説明は分かりやすかった」「(3)授業に対する教員の熱意を感じた」「(4)質疑や課題に対するフィードバックがあった」「(5)この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った」の5項目、設問Ⅱは学習に対する自己評価に関する事項で「(1)あなたは、この授業に熱心に取り組みましたか」「(2)議論や発表、問題を解決する力が身につきましたか」の2項目

である。まず、設問Ⅰについて、5項目全てが4.4以上の評価であり、総平均は4.5であることから概ね高い評価を得られた結果となった（図4）。設問Ⅱの学習に対する自己評価の結果をみると、9割以上の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。すなわち学生は授業に対して熱心に取り組み、発表（実技テスト）する力が身についたと自己評価していることが分かった（図5）。

設問Ⅰ	5 とても そう思う	4 そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そう思わ ない	平均
(1) 授業概要(シラバス)に沿って授業が行われた	50	30	6	0	0	4.5
(2) 授業の説明は分かりやすかった	43	37	6	0	0	4.4
(3) 授業に対する教員の熱意を感じた	51	29	6	0	0	4.5
(4) 質疑や課題に対するフィードバックがあった	41	35	10	0	0	4.4
(5) この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思った	51	28	7	0	0	4.5

総平均: 4.5

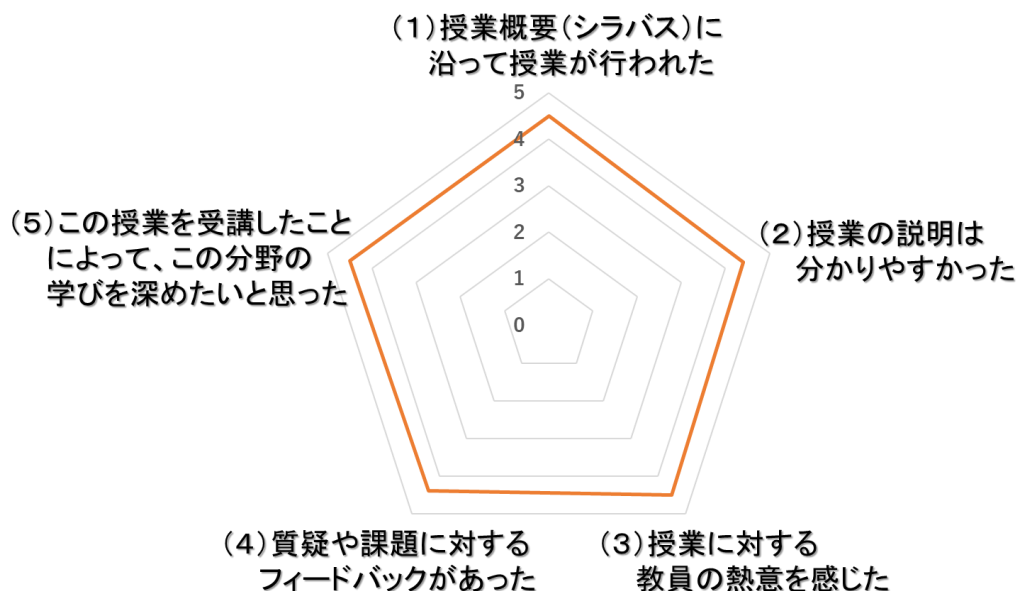


図4 令和3年度前期科目「表現」の授業アンケート結果（設問Ⅰ）

（幼児保育学科1年生履修者数：95名／回答者数：86名／回答率：90.5%）

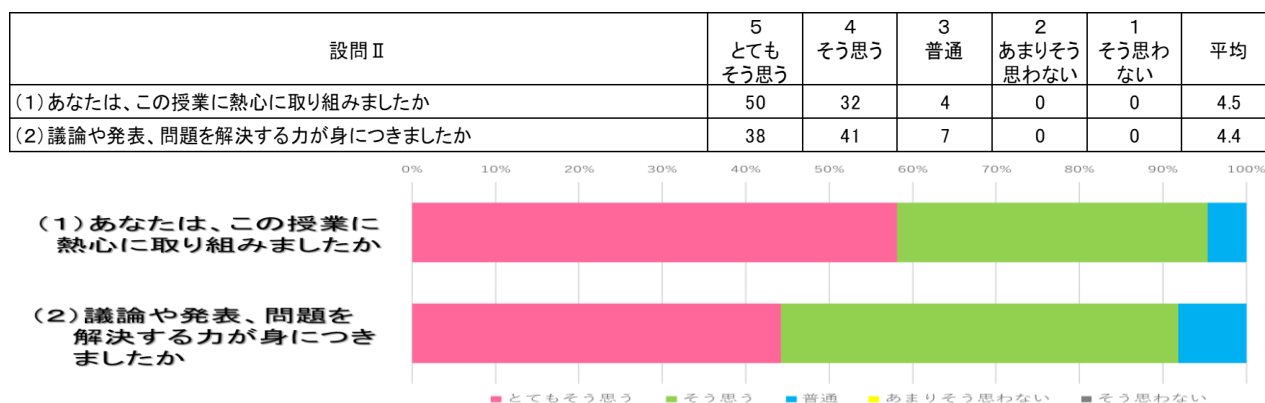


図5 令和3年度前期科目「表現」の授業アンケート結果（設問Ⅱ）

自由記述の「本授業について印象に残ったこと、よかったこと、改善して欲しいこと、困っていること等があったら、簡潔に記載してください」という設問に対して、「子どもが積極的に表現出来るにはどのようにしたら良いかなど考え新たな知識を深めることが出来ました。」「子どもたちの前でどのように表現するか力を身につけるために基礎的なことを学ぶことが出来て、とても勉強になりました。子どもたちが楽しんで活動ができるように自分も楽しみながら表現をしていきたいと思いました。」「表現という領域の授業を通して、表現が豊かな子どもから見たときにモデル、模範となる保育者でありたいと思いました。」などの記述があった。以上を踏まえ、学生は音楽表現、造形表現、身体表現の各分野に関する基礎的な知識・技能について、実践的に学びを深めることができたことと省察する（表5）。

表5 「本授業について印象に残ったこと、よかったこと、改善して欲しいこと、

困っていること等があったら、簡潔に記載してください」（自由記述）という設問に対する回答

- ・保育の現場で実際にやったり、見たりすることの出来る内容が多かったので良かったです。
- ・大事なポイントなどわかりやすく教えてくれて理解しやすかったです。
- ・実用的な授業もあったりして楽しかったです。
- ・先生が一つ一つ丁寧に説明をしてくださるのでとても分かりやすかったです。この授業でたくさんのことを学んで興味を持つことが増えたので良かったです。今後たくさん学んで自分の足りないところをできるようにしたいと思います。
- ・子どもが積極的に表現出来るにはどのようにしたら良いかなど考え新たな知識を深めることが出来ました。
- ・3項目についての学びが深められ音楽で、子どもの発達に合わせた曲選びをすると良いことが印象に残っています。
- ・子どもたちの前でどのように表現するか力を身につけるために基礎的なことを学ぶことが出来て、とても勉強になりました。
- ・子どもたちが楽しんで活動ができるように自分も楽しみながら表現をしていきたいと思いました。
- ・表現という領域の授業を通して、表現が豊かな子どもから見たときにモデル、模範となる保育者でありたいと思いました。
- ・どの分野も楽しくて、とてもタメになりました。自分の得意な分野がわかって良かったです。
- ・音楽表現、造形表現、身体表現を受けて、子どもと音楽の関わりや子どもの表現したものや気持ちを認める大切さ、季節ごとに手遊びを調べて色々な手遊びを覚えたことなどがこれから参考になり印象に残りました。他には動画を見たりして分かりやすかったです。
- ・いろいろなことが学べてよかったです
- ・先生の教え方が優しくとてもやりやすかったです
- ・実践として大切なことを学ぶことが出来て良かったです。
- ・テストが難しかったです。
- ・表現は3つに分かれていて大変かと不安でしたかどの先生がたも伝え方がとても分かりやすく学んでいて楽しかったです。
- ・楽しみながら学ぶと頭に定着しやすいと感じました。
- ・授業ありがとうございました
- ・表現について教えてくださりありがとうございました。

4. 考察

4-1 実技試験に臨む学生の意識

実技試験を終えた学生のレポート課題についてテキストマイニングを用いて分析した結果、「子ども」「工夫」「問いかける」「やすい」「大きい」という語句の出現回数が多いことが明らかになった。したがって、これらの語句は学生が実技試験において特に心掛けていた事柄と考えられる。そこで、本項では上記の語句の出現回数が多くなった理由と、その背景にある学生の意識について考察する。

まず始めに、「子ども」や「工夫」の出現回数が多い理由として、子どもの立場に立って、どのよ

うなことを工夫して実技試験に臨んだのか、学生の意識が「保育は子ども主体に考え、その場その場に応じた臨機応変さや応答的環境の大切さ」を感じていることがわかる。

次に「問いかける」では、声のかけ方や話し方について、子ども役である他の学生に対して、問いかけることを意識していることがわかる。あるいは意識する必要があることから、「子ども一人ひとりに合わせた言葉かけやその場に適した声掛けを重要視している」と考えられる。

さらに、「やすい」や「大きい」について、「やすい」とは、「～し易い」の意味であると考えたとき、学生は（子どもにとって）「分かりやすい」「歌いやすい」「動きやすい」「聞き取りやすい」など、子どもがより活動を理解し、楽しむことができるように、工夫することを実技試験において意識したのではないかと推察する。

4-2 表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項

筆者らが担当する「表現」のシラバスの到達目標では、「本科目を通じて、保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項について学ぶ。また、本科目の学習内容を踏まえ、『音楽表現領域指導法』『造形表現領域指導法』『身体表現領域指導法』の専門技能と保育実践力に繋げる知識を身に付ける。」と明記している。これを踏まえ、本項では学生が実技試験から学び得た「表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項」について考えてみたい。

(1) 子どもが主体となる活動

学生が実技試験を通して一番得たことは、「子どもを主体とした表現活動の展開」という観点ではないだろうか。それは、保育者が一方的に活動を進行することではなく、子どもの様子や表情、反応を気かけながら活動を進行させていくことである。その具体的な実践方法として、学生は「問いかける」ことを、子どもを主体とした表現活動の展開における具体的な実践方法の一つであると考えたのではないだろうか。実際の保育現場では、当たり前のように保育者が子どもに問いかけながら活動を進めているが、「問いかけ」に子どもが反応し、その反応に対して、さらに子どもの意欲が高まるような応答ができるのか。経験の浅い実習生（学生）は、「問いかけ」が大切であること理解しながらも、子どもの反応に対して上手く関わるができなかったということもある。

以上を踏まえると、学生は実技試験を経験したことにより、保育者役となって自ら考える、動く、授業に参加することを通して、子どもが主体となるような表現活動を実践し、子ども一人ひとりの思いや姿を理解することや、子ども一人ひとりの姿に合わせた援助の大切さを本授業から学ぶことができたと感じられる。

(2) 活動の工夫

テキストマイニングによる分析の結果、「やすい」「大きい」の出現回数も多かった。これは、学生が実技試験において特に意識した事柄を示唆するものであり、子どもにとって「分かりやすい」「歌いやすい」「動きやすい」「聞き取りやすい」ように工夫しながら実技試験に臨んでいたものと推察できる。また、「大きい」という語句は言い換えると「明確に」を意味するものと考えられる。声かけや動き、音、絵など、子どもに伝える事柄は全てにおいて明確に示すよう心がけることが、学

生の考える表現活動の工夫であったと考える。

平成 29 年告示の現行の保育所保育指針、幼稚園教育要領で大切にしている「感性」「思考力」「創造力」「表現力」はまさに「工夫」の連続である。子どもたちは常に五感で様々なことを感じ、発見し、挑戦したり試行錯誤したりしながら遊びのプロセスは進む。そのプロセスこそが心の成長であり、「生きる力」へと繋がっていくのである。自由記述の「本授業について印象に残ったこと、よかったこと、改善して欲しいこと、困っていること等があったら、簡潔に記載してください」に記載された内容からは、実技試験において学生が自らの得意な領域において、どのような「子ども主体」の活動を実践するか「考える」＝「工夫する」ために必要となる知識や技術の習得に向けて、学生の学修意欲は高まっていたことが考えられる。その意味でも、本授業において「工夫する」ことを意識的に学ぶことができたことは目的が達成されていることを示唆する。

5. おわりに

本研究は、筆者らが担当する「表現」の最終授業で行った実技試験や内省記述をテキストマイニングにより分析した結果、学生たちは本授業を通して、シラバスの到達目標に示す「保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項」、また表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項として「子どもが主体となるような活動の展開」や「活動の工夫」の学びが得られたことがわかった。しかし、本研究で着目した実技試験は三領域の中から一つを選択するものであり、今後の課題として、三領域について実技試験を行うなどの検討が必要であると考え。一方で、前述したが、三領域に共通して設けた課題は、「導入」＝「始める前の声かけ」、「活動のまとめ」＝「まとめの声かけ」であり、筆者らは特に「導入」を重要視している。初めての集団生活である幼稚園・保育所は、子どもたちが意欲的に活動できるような環境づくりに努めることが必要である。子どものやる気や意欲は全ての源であり、それは活動の「導入の重要性」のあり方を考えることがとても重要になってくる。なぜなら、「導入」は活動のきっかけであり、まさに何かを「やってみたい」「してみたい」気持ちの根幹である。活動は「導入」のあり方によって活動が決まるといっても過言ではない。そして「問いかける」や「大きい」というキーワードには、授業内の実践の中で「導入」を行う際に子どもの気持ちを考えながら相手に共感する、寄り添う、歩み寄るという意味が含まれているように感じる。同時に手振り・身振りを含めて、動きを大きくすることで子どもたちが見てわかりやすく、子ども理解を考えた上でのキーワードであると考え。

このように、順序の高いキーワードを挙げてみたが、どれもこれもみな「子ども主体」を考えられる内容となっている。授業実践する中で、いかに「子ども主体」を考えながら実践していたことが感じられる。

「身体表現」「音楽表現」「造形表現」三領域を総合した「表現」の授業実践は、学生にとって様々な「気づき」や「思考力」「発見」や「達成感」「自信」にも繋がったことを感じられる。保育において大切な「表現力」や「思考力」「創造力」を 15 回の授業の中で体得している様子が伺え、授業前と授業後では学生一人ひとりの表情や意欲までも違いが表れているように感じられた。

しかしながら、昨今のコロナ感染防止対策として、リモート授業やレポートに代わったこともあり、対面授業と同じような内容を行うために、様々な工夫や取り組みの必要性を感じる。学生授業後アンケートに書かれていることはもちろんのこと、書かれていないことや書くまでに至らずに心に秘めている内容もあるであろう。それぞれの分野において、幼稚園教育要領・保育所保育指針でどのようなことに重点をおいた教授方法をとることが大切なのか、再度検討や常に話し合いを持つことが養成校教員として必要であると思う。

著者の利益相反： 開示すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 文部科学省, 『幼稚園教育要領』, 2017, フレーベル館
- 2) 厚生労働省, 『保育所保育指針』, 2017, フレーベル館
- 3) 文部科学省, 『幼稚園教育要領』, 2017, フレーベル館
- 4) 厚生労働省, 『保育所保育指針』, 2017, フレーベル館
- 5) 智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈子, 2021, 『アンケート調査から見た保育者養成校における総合的な表現活動に関する授業の実施状況』, 京都光華女子大学研究紀要第 54 号, pp. 197-205
- 6) 国際学院埼玉短期大学, 「シラバス」, 2021, <https://ccm.kgef.ac.jp/private/management/abu0060/search> (2022. 1. 12)
- 7) User Local AI テキストマイニング : <https://textmining.userlocal.jp/> (2020. 8. 29)

参考文献

- 蝦名敦子 (2019) 『同一材料を活用した表現 3 領域の内容考察—大学生の授業実践を通して—』弘前大学教育学部紀要第 121 号, pp. 81-89
- 畑野裕子 (2021) 『「保育内容・表現」の研究動向に関する一考察—CiNii 掲載論文を中心に—』神戸親和女子大学紀要, pp. 129-144
- 木村安宏・牛丸和人 (2017) 『これからの保育者養成における領域「表現」(造形)指導に関する提案』永原学園西九州大学短期大学部紀要, pp. 29-35
- 大塚貴之 (2020) 『保育者養成における教授法について—保育者養成校の総計に関する文献調査を通して—』豊岡短期大学論集第 17 号, pp. 11-19
- 山内信子 (2017) 『保育内容「表現」の指導に関する研究—幼稚園教育要領等の変遷に基づいて—』聖和短期大学紀要第 3 号, pp. 75-83

コロナ禍における体育大会の実施報告

A Report on Implementation of Physical Education Events during the COVID-19 Pandemic

古木竜太 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

本論は令和3年度に実施した国際学院埼玉短期大学（以下、本学）における体育大会について報告する。本学では、毎年5月に体育大会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度は中止した。令和3年度は、感染拡大防止を徹底しながら体育大会を実施する方策として、パラリンピックの公式種目である「ボッチャ」の学内大会を実施することにした。そして、ボッチャ大会を成功させるため、体育大会部会（教職員組織）と体育大会委員会（学生組織）は、学生の体育大会への参加意欲を高めるため、PR動画やルール解説動画を作成した。

まん延防止重点措置や緊急事態宣言の発令により、二度の延期があったが規模を縮小（クラス単位）して体育大会を実施することができた。プレアンケートでは、筆者が期待するような結果が得られなかったが、学生はある程度、体育大会を楽しみにしていることやボッチャに興味を示していることがわかった。ボッチャ大会を終えた後に実施したポストアンケートでは、学生の満足度やボッチャに対する理解度が高まったことを示唆する結果が得られた。

キーワード：ボッチャ、体育大会

1. はじめに

1-1 コロナ禍前の体育大会

本学では、毎年5月に上尾運動公園体育館で体育大会を実施している。体育大会の目的は、「本学学生がスポーツマンシップに則り、競技を行うことによって、クラス、学年、学科を越えて交流を図るとともに相互の友情と団結の絆を深める。また、体育大会は『体育・スポーツ活動における充実した学生相互交流』という役割を担い、学生の自主性・協調性を育む学内行事として実施する。」である。5月という時期は、1年生にとって入学式以後、クラスメイトとの短大生活を約1ヶ月過ごした頃であり、初めて迎える体育大会となる。筆者は学生に対して、1年生はクラスの交流を深める場となり、2年生にとっては、さらにクラスの絆を深める場となることを期待して毎年、体育大会を企画・運営している。

令和2年度に卒業した学生を対象にした「学生満足度アンケート」（図1）では、「行事のうち、やりがいがあり、楽しく取り組めたものは何ですか」という設問に対し、「体育大会」と答えた割合は、幼児保育学科で36.3%（第1位）、健康栄養学科でも33.3%（第2位）という結果になった。本学の体育大会は、学生にとって思い出深い学内行事であることがわかる。

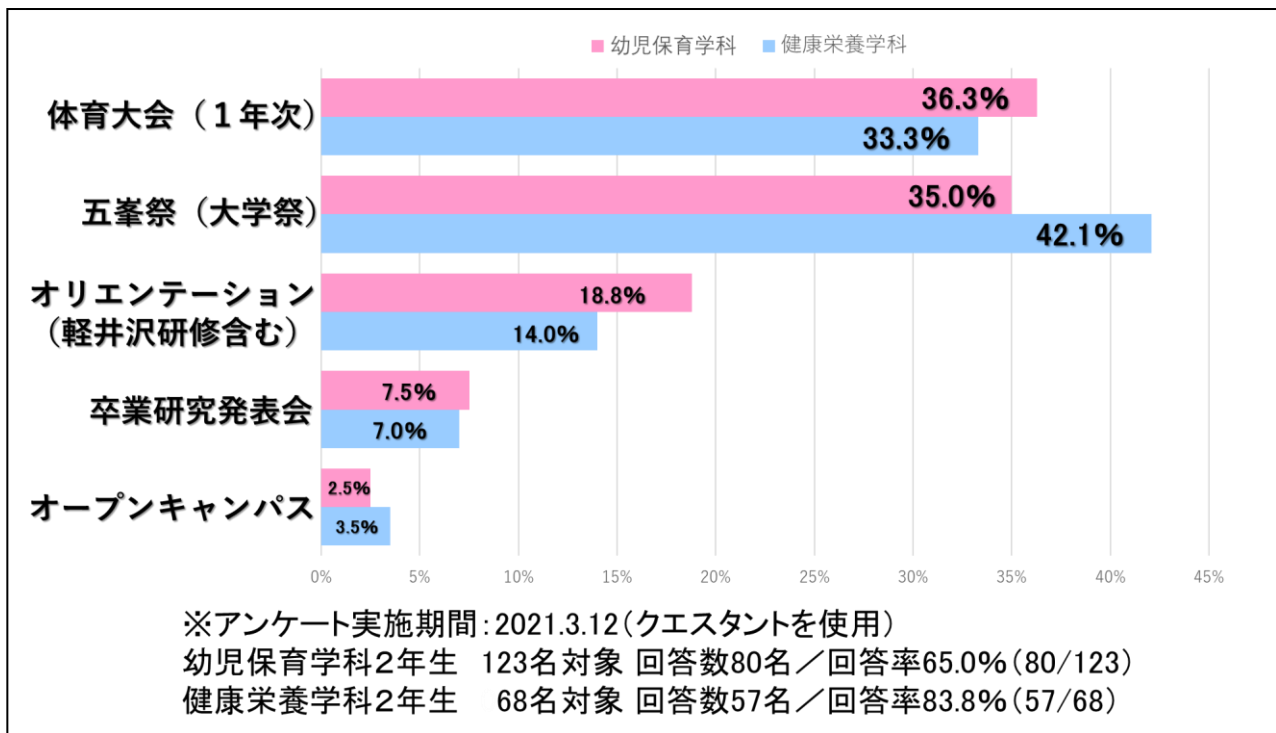


図1 学校行事に関する学生満足度アンケートの結果

(「Q. 行事のうち、やりがいがあり、楽しく取り組めたものは何ですか (必須 / 1つ選択)」という設問)

1-2 令和2年度の体育大会

毎年5月に上尾運動公園体育館で開催している体育大会だが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。令和2年4月に緊急事態宣言が発令され、各地域の学校は全面的な臨時休業措置が取られた。本学においても令和2年4月から約2か月間、ポータルサイトを用いた遠隔課題学習による授業を実施した。緊急事態宣言が解除された令和2年6月以降、本学では分散登校や短縮授業、手洗い・マスク・消毒などの感染拡大防止を徹底しながら授業を行っていた。その間、体育大会部会では中止になった体育大会をどのような内容で実施できるか、開催時期や競技内容について思案していた。そして、学友会と体育大会委員会が協力して、「玉入れ」をモチーフとした競技を考案し、令和3年1月頃に開催できるよう準備を進めていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が終息せず、令和3年1月に2回目の緊急事態宣言が発令され、学友会と体育大会委員会の共同企画も中止となった。

1-3 ボッチャに着目した体育大会の構想

令和2年度の体育大会が中止、学友会との共同企画も中止になった反省を踏まえ、令和3年度の体育大会はコロナ禍においても感染拡大防止を徹底しながら確実に実施できる内容でなければならない。この課題を解決するために着目したスポーツが「ボッチャ」であった。ボッチャ (Boccia) とは、イタリア語で「ボール」を意味するもので、運動能力に障がいがある競技者向けに考案されたヨーロッパ発祥

のスポーツであり、パラリンピックの公式種目でもある。そして、ボッチャは「だれでもできる」というのが最大の特徴であり魅力といわれている¹⁾。

競技の特性として、①ボッチャは身体接触がなく、マスク・フェイスシールドを着用するなど、感染拡大防止を徹底しながら行える。②易しいルールだが、ゲーム展開の駆け引きも楽しめ、一投で勝敗の行方が変わる奥深さがある。③令和3年(2021年)は東京パラリンピックが開催され、ボッチャの日本代表選手の活躍が期待されている中、パラリンピック後もボッチャが注目される可能性が高い。④本学学生がSDGsの取り組みの一環としてボッチャを行うことで、障がい者スポーツの理解を深める。以上を踏まえると本学の体育大会において、全学生参加型のボッチャ大会を実施することは意義深いと考えた。

2. 令和3年度体育大会の実施報告

2-1 体育大会(ボッチャ大会)の開催延期の経緯

本項では、令和3年度体育大会(ボッチャ大会)の競技方法について論じる。結論から述べると、令和3年5月21日に開催予定だった体育大会は埼玉県のまん延防止重点措置の発令により延期した。5月21日開催案の実施要領では、①クラス内でチーム(5~6人)を編成し、リーグ戦(総当たり戦)でボッチャを行う。すなわち、健康栄養学科・幼児保育学科の1・2年生で72チーム、それに教職員3チームも加えて合計75チームを15のリーグに振り分けて、「学科・学年交流戦」を行う。そして、それとは別にクラスで選抜チームを編成し、「クラス対抗戦」を行う予定であった。

5月の体育大会延期決定後、学事日程の調整を図り、当時の新型コロナウイルス感染拡大の状況や本学独自の活動指針レベルを踏まえ、学科別に体育大会を開催するよう変更した。そして、開催日を検討した結果、幼児保育学科は8月3日、健康栄養学科は9月21日に決定したが、3回目の緊急事態宣言により再延期となった。そこで、確実に体育大会を実施する方策として、クラスごとにボッチャ大会を行うことにした(表1)。

表1 令和3年度の体育大会開催延期の経緯²⁾

月日	実施内容	当時の状況 (埼玉県及びさいたま市)
5/21(金)	両学科1・2年生 交流戦(全学生参加) クラス対抗戦(選抜メンバー)	まん延防止重点措置 →体育大会は延期
8/3(火)	幼児保育学科の部 ・学年交流戦 ・クラス対抗戦	2回目の緊急事態宣言 →幼児保育学科の部は延期
9/21(火)	健康栄養学科の部 ・学年交流戦 ・クラス対抗戦	2回目の緊急事態宣言継続中 →健康栄養学科の部は延期
10/20(水) ~ 10/29(金)	各クラス(計12クラス)ごとに実施 ・クラス交流戦	10/1(金)より緊急事態宣言解除 →各クラス予定通りに実施

参考:埼玉県ホームページ「埼玉県の緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の推移」

2-2 クラスごとに実施した体育大会（ボッチャ大会）の実践報告

表2 各クラスの体育大会開催日

本項では実際に開催することができた体育大会（ボッチャ大会）について報告する。各クラスの開催日時は表2の通りである。各クラスの時間割から授業がない曜日・時間帯を検討した。開催場所は本学地下1階の講堂および001教室であり、近畿日本ツーリストの協力を得て体験用ボッチャコート（3×6m）を2面、それぞれの教室に設置した（図3）。

①10月20日(水)	3限	健康栄養学科2年A組
②10月20日(水)	4限	幼児保育学科2年C組
③10月22日(金)	4限	幼児保育学科2年B組
④10月25日(月)	3限	健康栄養学科1年C組
⑤10月25日(月)	4限	幼児保育学科1年B組
⑥10月27日(水)	1限	幼児保育学科2年A組
⑦10月27日(水)	3限	健康栄養学科2年B組
⑧10月27日(水)	5限	健康栄養学科2年C組
⑨10月28日(木)	1限	健康栄養学科1年A組
⑩10月28日(木)	2限	健康栄養学科1年B組
⑪10月29日(金)	3限	幼児保育学科1年C組
⑫10月29日(金)	4限	幼児保育学科1年A組



図2 大会会場（001教室）

「体育大会は建学の精神・教育方針の下、学生の自主性・協調性を育む学内行事として実施するとともに、体育・スポーツ活動における充実した学生相互交流を図ることを目的とする。特に、今年度は、パラスポーツであるボッチャに取り組むことで、その競技の意味や成り立ち・歴史を知るとともに、SDGs を学ぶ本学学生にとって障がい者スポーツに関する理解を深める機会とする。」ことを目的として実施した。具体的な競技方法として、クラス内で三人一組のチームを編成し、講堂および001教室の会場に分かれて総当たりのリーグ戦を行う。ボッチャは1エンド勝負とし、リーグ戦は最も勝ち数が多いチームが優勝決定戦に出場する。勝ち数が同数の場合は得失点差を算出するかリーグ1位決定戦を行う。次に各リーグの1位チームが優勝決定戦を行い、優勝・準優勝を決定する（表3および図4）。

表3 対戦リーグ表（健康栄養学科2年B組の実際のゲーム結果）

【会場:講堂】

	1班	3班	5班	7班	9班	勝ち	負け	引き分け
1班		① ○ 5-0	⑥ ○ 1-0	⑨ × 0-1	③ × 0-2	2	2	
3班	① × 0-5		④ ○ 2-0	⑦ ○ 4-0	⑤ × 0-1	2	2	
5班	⑥ × 0-1	④ × 0-2		② ○ 1-0	⑧ × 0-3	1	3	
7班	⑨ ○ 1-0	⑦ × 0-4	② × 0-1		⑤ ○ 2-0	2	2	
9班	③ ○ 2-0	① ○ 1-0	③ ○ 3-0	⑤ × 0-2		3	1	

【会場:001教室】

	2班	4班	6班	8班	10班	勝ち	負け	引き分け
2班		① ○ 1-0	⑥ ○ 1-0	⑨ ○ 1-0	③ ○ 1-0	4	0	
4班	① × 0-1		④ ○ 1-0	⑦ ○ 2-0	⑤ × 0-2	2	2	
6班	⑥ × 0-1	④ × 0-1		② × 0-1	⑧ ○ 1-0	1	3	
8班	⑨ × 0-1	⑦ × 0-2	② ○ 1-0		⑤ ○ 1-0	2	2	
10班	③ × 0-1	① ○ 2-0	③ × 0-1	③ × 0-1		1	3	

優勝決定戦【会場:講堂】2班 vs 9班⇒優勝:2班 準優勝:9班

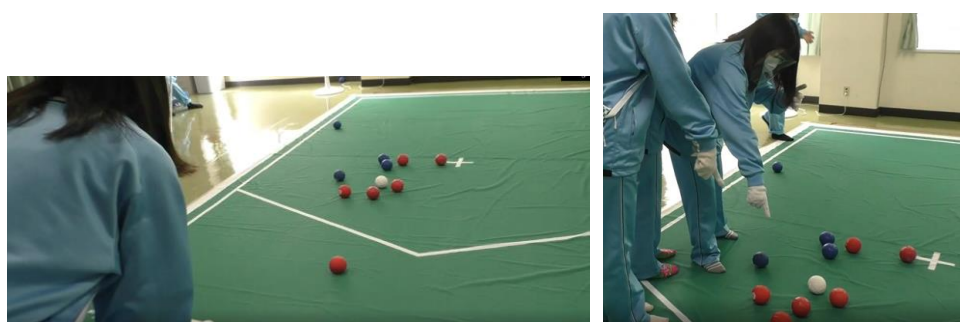


図3-1 リーグ戦の様子



図3-2 優勝決定戦の様子



図3-3 表彰式の様子

2-3 プレ・ポストアンケートについて

(1) プリアンケート

今回のボッチャ大会に先立ち、クラウド型アンケート作成ツール「Questant（クエスタント）」を用いて、本学の全学生 366 名を対象にプレアンケートを実施した。アンケート実施期間は 2021 年 10 月 13 日から 10 月 27 日であり、回答数は 296 名で 80.9%の回答率であった。質問項目は、①「今回の体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しみにしていますか？」②「『ボッチャ』に興味がありますか？」③「ボッチャのルールを理解していますか？」④「体育大会に期待することは何ですか？（複数回答可）」⑤「正面玄関に放映している体育大会の PR 動画やルール解説動画を見ましたか？」⑥「今回の体育大会のスローガン「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）の意味を知っていますか？」の 6 項目である。以下、各項目の結果について報告する。

まず始めに、①「今回の体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しみにしていますか？」という設問について、「大変楽しみにしている」と回答した学生が 11.5%、「楽しみにしている」が 39.2%、「どちらともいえない」が 35.8%、「楽しみにしていない」が 8.4%、「全く楽しみにしていない」が 5.1%という結果であった（図 5）。ボッチャ大会に興味・関心を持たせる試みとして、体育大会部会および体育大会委員会では、PR 動画、ルール解説動画、各クラスで大会ポスターを作成した。その結果、「大変楽しみにしている」「楽しみにしている」という回答が全体の 50%を占めたが、一方で、二度の延期やクラス単位による規模を縮小した大会の実施であったことから、学生のボッチャ大会に対する期待も薄れていったとも考えられる。

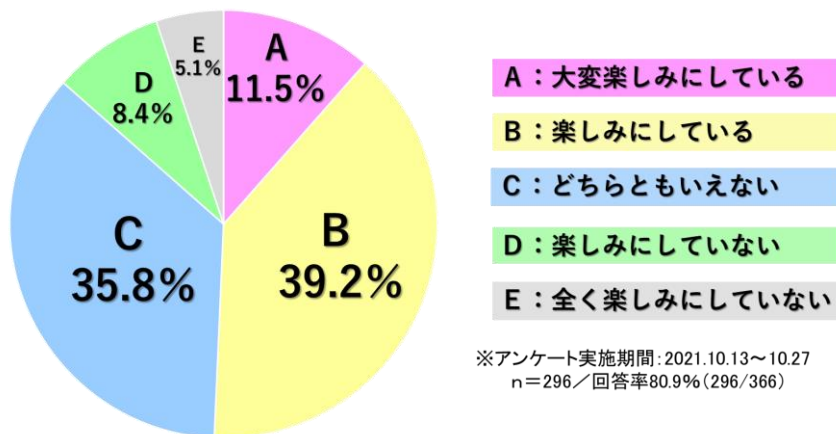


図4 「今回の体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しみにしていますか？」

次に、②「『ボッチャ』に興味がありますか？」という設問について、「大変興味がある」と回答した学生が 8.8%、「興味がある」が 49.6%、「どちらともいえない」が 36.1%、「興味がない」が 8.4%、「全く興味がない」が 4.1%という結果であった（図 6）。「大変興味がある」「興味がある」という回答が全体の 51%を占めた理由として、2021 年 8 月 24 日から 9 月 5 日まで開催されたパラリンピック東京大会（ボッチャの競技は 8/28~9/4 の期間に開催）³⁾が考えられる。個人 BC（運動機能）のクラスでは、日本の杉村英孝選手が金メダル、団体 BC1/2（運動機能）クラスで日本は銅メダル、ペア BC3

(運動機能) クラスで日本は銀メダルを獲得した。このように、日本人選手の活躍によりボッチャに対する興味が高まったものと考えられる。

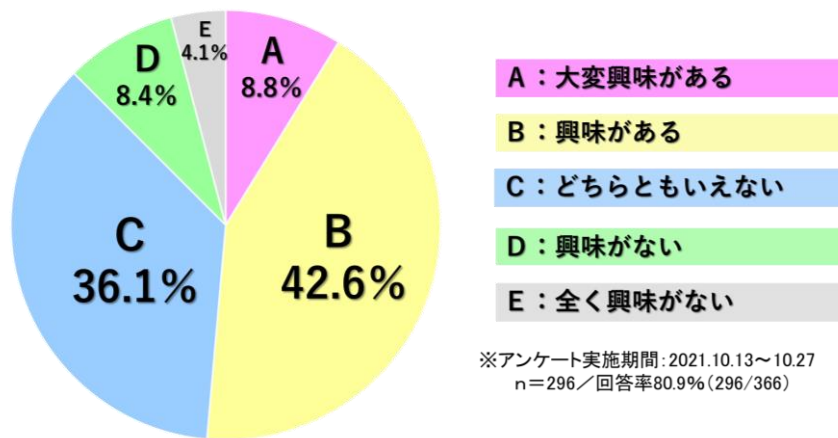


図5 「ボッチャに興味がありますか？」

次に、③「ボッチャのルールを理解していますか？」という設問について、「よく理解している」と回答した学生が10.8%、「ある程度理解している」が61.5%、「どちらともいえない」が16.9%、「理解が不十分である」が7.4%、「全く理解していない」が3.4%という結果であった(図7)。この結果について、幼児保育学科の2年生は保育実習Ⅰ(施設)の学内実習(1年次)においてボッチャを体験、健康栄養学科および幼児保育学科1年生は、「健康・スポーツⅠ」の授業において体験した。健康栄養学科2年生はボッチャを体験する日時を設定することが難しく、学生一人一人がボッチャを体験することができなかったが、講義形式で代表学生がボッチャを実演し、ルールを解説した。このような取り組みから、7割程度の学生が概ねルールを理解していることが分かった。

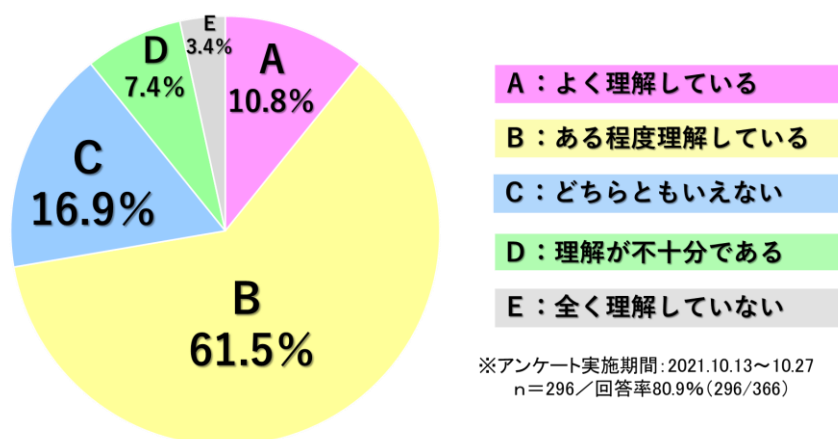


図6 「ボッチャのルールを理解していますか？」

次に、④「体育大会に期待することは何ですか？(複数回答可)」という設問について、最も高い割合を示した項目は「仲間と楽しむ」で65.2%、第2位が「自クラスの交流を深める」で55.1%、第3

位が「短大生活の思い出づくり」で39.2%、第4位が「障がい者スポーツの理解を深める」で29.4%、第5位が「クラスでの団結」で22.6%という結果であった（図8）。特に2年生は本学入学以来、自宅での遠隔課題学習や体育大会の中止、文化祭も必要最低限に縮小した形式での実施（令和2年度）など、本学がこれまで取り組んできた行事を経験することができずに学校生活を過ごしてきた。このような背景を踏まえると、上位3項目の結果は、体育大会に期待することとして学生の切実な思いが反映されていると考える。

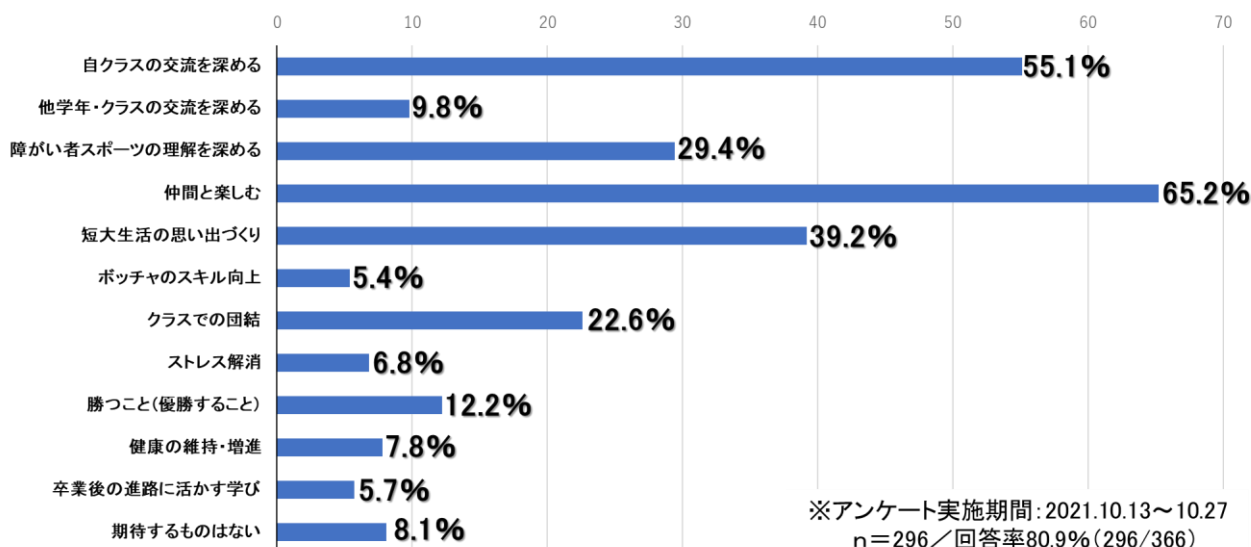


図7 「体育大会に期待することは何ですか？（複数回答可）」

次に、⑤「正面玄関に放映している体育大会のPR動画やルール解説動画を見ましたか？」という設問について、「よく見た」と回答した学生が8.1%、「少し立ち止まって見た」が20.9%、「歩きながらチラッと見た」が65.5%、「見たことがない」が5.4%という結果であった（図9）。前述のとおり、体育大会部会ならびに体育大会委員会では、馴染みの薄いポッチャに興味を持たせる試みとして体育大会のPR動画や

ルール解説動画を作成し、本学正面玄関に設置している電気掲示板にて配信した（図10）。

「歩きながらチラッと見た」という学生を含めて、9割以上は動画を「見た」と回答している。動画はポッチャ大会が始まる約1ヶ月

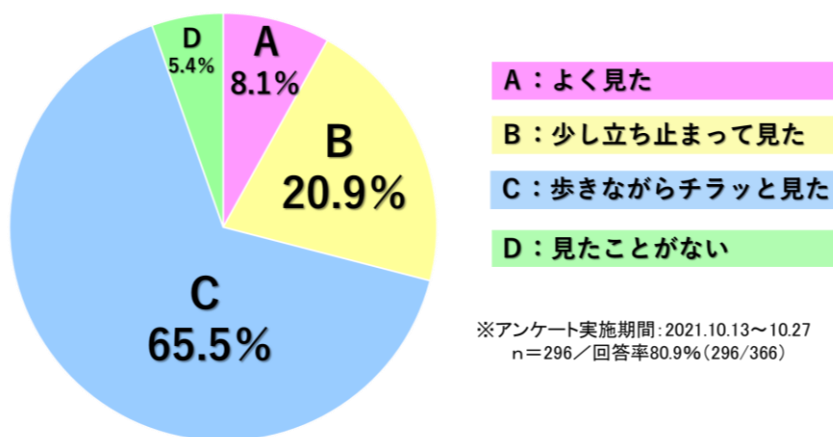


図8 「正面玄関に放映している体育大会のPR動画やルール解説動画を見ましたか？」

前から配信した。毎日、動画を目にしながらか登下校した学生もいたと想像する。以上を踏まえると、動画を用いた周知活動は効果的であった。

令和3年度の体育大会(ポッチャ大会)は、4月発令のまん延防止重点措置、8月発令の緊急事態宣言に鑑み、開催を延期していました。そして、この度「安全に確実に開催できる」方法として、クラスごとに体育大会を実施することにしました。ポッチャを通じてクラスの仲間との交流がさらに深まることを期待します。制約が多い日常ですが、短大生活の良き思い出になりますよう。

令和3年度 国際学院埼玉短期大学
KOKUSAI GAKUIN SAITAMA COLLEGE

体育大会(ポッチャ大会)

開催決定!

10月20日(水)3限	健康栄養学科2年A組
10月20日(水)4限	幼児保育学科2年C組
10月22日(金)4限	幼児保育学科2年B組

※集合場所:地下1階講堂

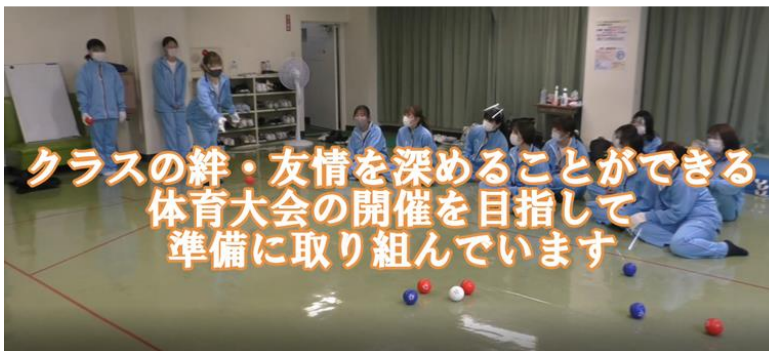


図 9-1 PR 動画

体育大会で実際に使用するコート

【基本ルール その①】
「赤」ボールを選択したチームが必ずジャックボールを投げる!

参照:公益財団法人 日本陸がいのスポーツ協会「かんたん!ポッチャガイド」

参照:公益財団法人 日本陸がいのスポーツ協会「かんたん!ポッチャガイド」

得点の権利は「青」!
= 赤は0点!

Q. 三番目に近いボールは?

二番目に近いボール

三番目に近いボール

四番目に近いボール

ジャックボールに一番近いボール

図 9-2 ルール解説動画

次に、⑥「今回の体育大会のスローガン「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）の意味を知っていますか？」という設問について、「知っている・意味も知っている」と回答した学生が22.6%、「言葉は知っているが、意味は分からない」が34.8%、「言葉も意味も知らない」が42.6%という結果であった（図11）。ポッチャ大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底して開催するため、「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）という大会スローガンを掲げた。これは「静かに盛り上がる」ということを意味し、観戦・ゲーム中は大声を出さないことを注意喚起するものである（図12）。

「知っている・意味も知っている」という回答が22%程度に留まり、「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）という大会スローガンが学生にとって十分に浸透しない結果となった。大会当日は、マスクやフェイスシールド、手袋を着用し、換気に注意しながら新型コロナウイルスの感染予防を徹底して行ったが、さらに学生が拍手やグータッチなど、「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）を心がけた大会となるような周知活動が必要であり、今後の課題である。

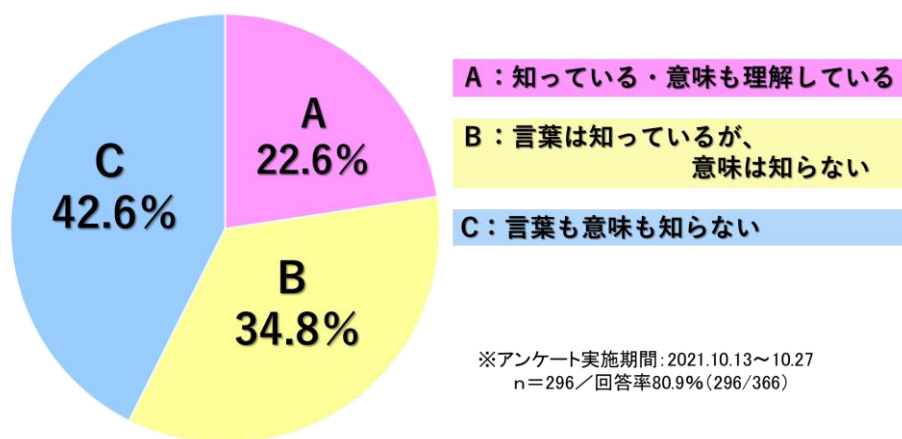


図10 「今回の体育大会のスローガン「Silent Hustle」（サイレント・ハッスル）の意味を知っていますか？」

★大会スローガン(『サイレント・ハッスル』)



令和3年度体育大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底して実施します。マスク、フェイスシールド、手袋を着用し、ゲームが終わる度にボールを消毒します。会場内は常に換気をして、観戦・ゲーム中は大声を出さず、静かに盛り上がる「Silent Hustle(サイレント・ハッスル)」を大会スローガンとして実施します。

図11 体育大会のスローガン『Silent Hustle (サイレント・ハッスル)』(運営競技集より抜粋)

(2) ポストアンケート

プレアンケートと同様にクラウド型アンケート作成ツール「Questant (クエスタント)」を用いて、ポッチャ大会を終えた直後、参加した学生327名を対象にポストアンケートを実施した。回答数は291

名で 89.0%の回答率であった。質問項目は、①「体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しめましたか？」②「ボッチャに興味が持てましたか？」、③「ボッチャのルールは理解できましたか？」、④「体育大会に参加して得たことは何ですか？（複数回答可）」の4項目である。なお、ポストアンケートの質問項目（①～④）は、プレアンケートの質問項目（①～④）に対応した設問になっている。したがって、以下、各項目①～④の結果について、プレアンケートの結果と比較しながら報告する。

まず始めに、①「体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しめましたか？」という設問について、「大変楽しめた」と回答した学生が 52.6%、「楽しめた」が 44.3%、「どちらともいえない」が 2.1%、「楽しめなかった」が 1.0%、「全く楽しめなかった」が 0%（回答なし）という結果であった（図 12）。プレアンケートの質問項目①と比べ、「大変楽しめた」「楽しめた」という回答が顕著に増えた。これは、実際にボッチャ

を経験することにより、学生はボッチャの楽しさを十分に味わうことができたと推察する。当日の様子を振り返ると、思い描いたとおりにボールを転がせない、あるいは勝敗を決する一投で逆転勝利するなど、一喜一憂する様子が散見された。

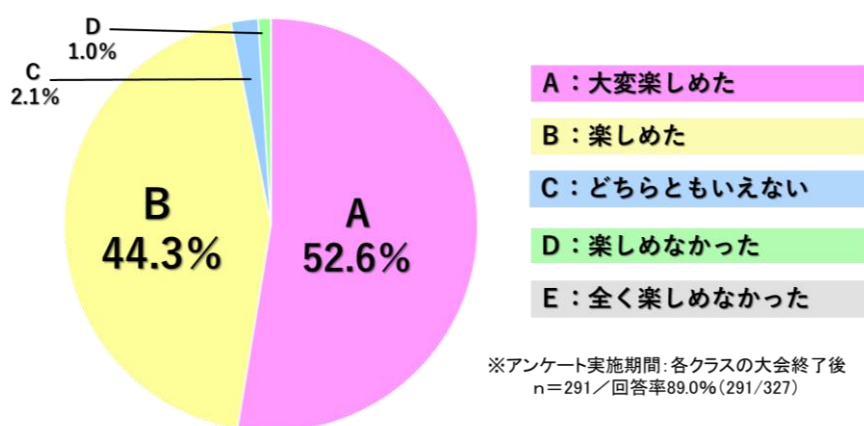


図 12 「体育大会（ボッチャ大会）を、どの程度楽しめましたか？」

次に、②「ボッチャに興味が持てましたか？」という設問について、「大変興味を持てた」と回答した学生が 32.6%、「興味を持てた」が 52.9%、「どちらともいえない」が 12.4%、「興味を持てなかった」が 12.4%、「全く興味がない」が 0.3%という結果であった（図 13）。プレアンケートでは、「大変興味がある」（8.8%）、「興味がある」（42.6%）が 51.4%に対し、ポストアンケートでは、「大変興味を持てた」（32.6%）、「興味を持てた」（52.9%）が 85.5%と増加した。学生は実際にボッチャを経験することにより、ボッチャに対する興味や関心が深まったと推察する。

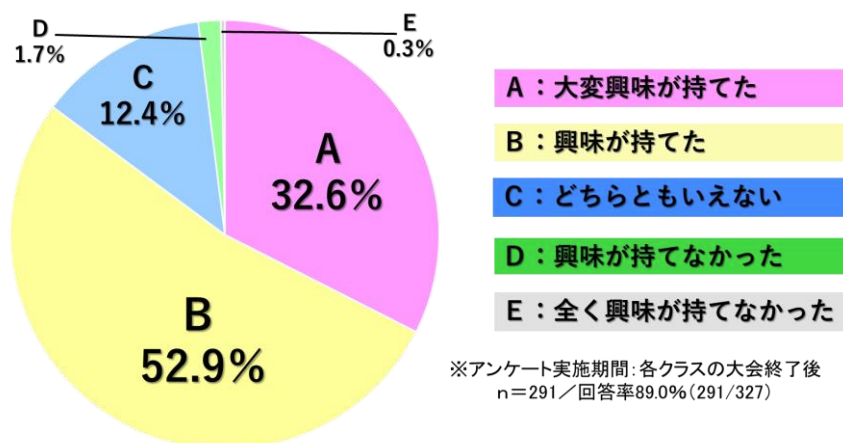


図 13 「ボッチャに興味がありましたか？」

次に、③「ボッチャのルールは理解できましたか？」という設問について、「よく理解できた」と回答した学生が47.8%、「ある程度理解できた」が47.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「理解が不十分である」「全く理解していない」が0%（回答なし）という結果であった（図14）。プレアンケートでは、「どちらともいえない」（16.9%）、「理解が不十分である」（7.4%）、「全く理解していない」（3.4%）が合計で27.7%であるのに対して、ポストアンケートでは、「どちらともいえない」（4.8%）のみの回答であった。

筆者はスポーツを楽しむためには、ルールの理解は必須であると考え。そして、ルールを理解した上で、技術的あるいは戦術的に自らのパフォーマンスを高め、さらに楽しさを深めていくことがスポーツの醍醐味ではないだろうか。大会当日はゲーム前に改めてルールや得点集計の仕方を筆者は確認するとともに、ジャックボール（目標球）をどこに投げると有利にゲームを進められるか、あるいは相手チームがジャックボールに近づけることを防ぐボールの投げ方など、ボッチャの戦術に関して説明した。学生は基本的なルールとボッチャのゲーム戦術を理解しながら競い合っていたものと推察する。

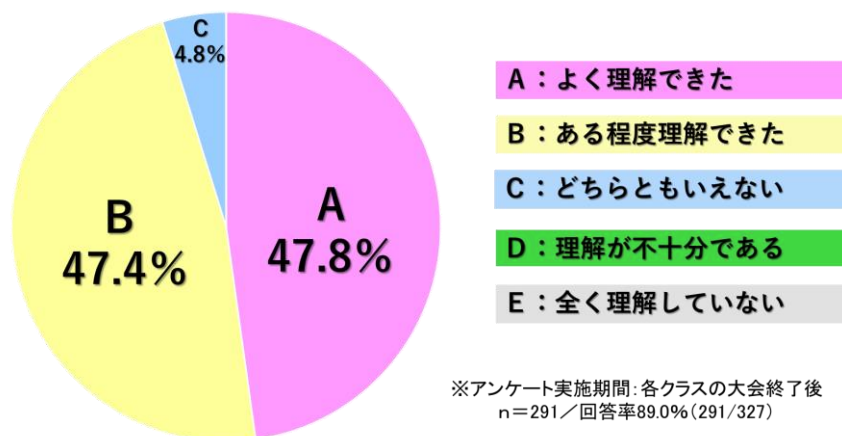


図14 「ボッチャのルールは理解できましたか？」

次に、④「体育大会に参加して得たことは何ですか？（複数回答可）」という設問について、最も高い割合を示した項目は「仲間と楽しめた」で79.7%、第2位が「クラスメイト同士で交流を深めることができた」で79.4%、第3位が「短大生活の思い出づくりができた」で52.9%、第4位が「障がい者スポーツの理解を深めることができた」で34.7%、第5位が「クラスでの団結力を高めることができた」で25.8%という結果であった（図15）。プレアンケートの結果と比較すると、上位1~5位の項目は全て同じ順位となっている。そして、例えばプレアンケート（期待することは何か？）第1位の「仲間と楽しむ」が65.2%であるのに対し、ポストアンケート（得たことは何か？）第1位の「仲間と楽しめた」が79.7%と増加を示しているように、上位1~5位全ての項目においてパーセンテージが増加した結果となった。すなわち、今回の体育大会（ボッチャ大会）は学生の期待にある程度応えることができた内容であったと推察する。

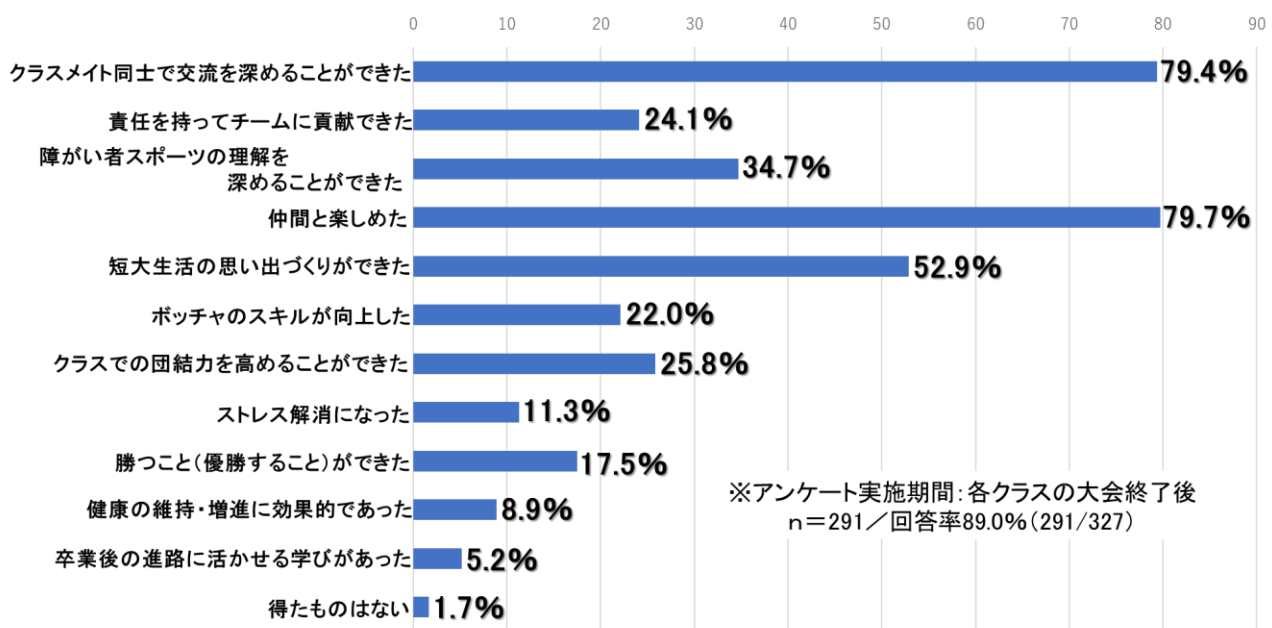


図 15 「体育大会に参加して得たことは何ですか? (複数回答可)」

3. おわりに

本学の体育大会は、2年間の学生生活の中でも、学生にとって思い出深い行事である。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年度の体育大会は中止、代替え企画の実施も叶わなかった。このような現状を踏まえ、令和3年度の体育大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底して開催することが大前提であり、コロナ禍においても感染拡大防止を徹底しながら行えるスポーツとして「ボッチャ」に特化した体育大会を実施することにした。また、令和3年はパラリンピック東京大会が開催されたことから、本学学生がボッチャの特性やルールを理解し、ゲームを体験することは意義深いと考えた。

まん延防止重点措置や緊急事態宣言の発令により、二度の延期と規模を縮小する形式での実施となったが、令和3年度の体育大会を開催することができた。学生がボッチャに興味を持てるように、PR動画やルール解説動画を作成して周知を図った。プレアンケートでは、筆者が期待するような結果が得られなかったが、学生はある程度、体育大会を楽しみしていることやボッチャに興味を示していることがわかった。ボッチャ大会を終えた後に実施したポストアンケートでは、学生の満足度やボッチャに対する理解度が高まったことを示唆する結果が得られた。体育大会部会責任者である筆者にとって、ポストアンケートの結果は満足できるものとなった。

一方で、ボッチャを楽しむ工夫として、「勝敗」よりも「総得点」で競う方が良いと感じた。以下、その点について述べたい。表4は健康栄養学科1年A組の実際に行ったリーグ戦結果を勝敗と総得点で示したものであるが、6班が4勝1敗、総得点が8点であり、勝敗・総得点のいずれも1位である。注目すべきは2位の1班、7班、8班の成績である。3チームとも3勝2敗だが、総得点をみると8班が7点であり、1位の6班とわずか1点差であった。例えば、8班は1班との対戦で1対0ではなく、2対0

で勝利していたら総得点で6班と並び、3対0ならば総得点では1位ということになる。勝敗で競う場合、1対0でも2対0でも、どちらも「勝ち」であり、相手チームのボールが投げ終わっても、自チームの投球が続く場合、追加点を目指す必要はない。公式ルールでは「Balls Not Thrown」（投球されなかったボール）⁴⁾として扱っている。ところが、総得点で競い合う場合は、追加点を目指す理由が生じるため、最後の投球まで、相手や自チームの成績を踏まえて投げなければならない。勝つときは大量得点を目指し、負けたとしても最少失点（1点）に留めるようなゲーム展開にする必要がある。クラス単位で実施した今回のポッチャ大会は、途中から総得点で競い合うようにルールを変更した。そうすると、勝敗で競うよりも細かい作戦を話し合う学生たちの様子が見られ、よりポッチャの魅力を体感することができたのではないかと省察する。

表4 実際のリーグ戦結果（健康栄養学科1年A組）

	1班	2班	3班	6班	7班	8班	勝ち	負け	総得点
1班		① ○ 2-0	② ○ 1-0	③ ○ 1-0	④ × 0-1	⑤ × 0-1	3	2	4
2班	① × 0-2		② × 0-3	③ × 0-1	④ ○ 1-0	⑤ × 0-3	1	4	1
3班	② × 0-1	② ○ 3-0		③ × 0-3	④ × 0-1	⑤ × 0-2	1	4	3
6班	③ × 0-2	③ ○ 1-0	③ ○ 3-0		④ ○ 2-0	⑤ ○ 2-0	4	1	8
7班	④ ○ 1-0	④ × 0-1	④ ○ 1-0	④ × 0-2		⑤ ○ 2-0	3	2	4
8班	⑤ ○ 1-0	⑤ ○ 3-0	⑤ ○ 3-0	⑤ × 0-2	⑤ × 0-2		3	2	7

今回は学科や学年の枠を越えて、学生同士の交流を深められるような体育大会を実施することができなかった。改めて令和3年度の体育大会を振り返ると、予定通りに「できなかった」という歯がゆさもあるが、かたちを変え、工夫を凝らし「できた」という充実感もある。今後は本事例の取り組みを活かし、学生にとって、思い出という「宝物」になる体育大会を実施できるよう努めたい。

謝 辞

令和3年度、本学における体育大会開催にあたり、専用コートや景品の準備など、二度の延期があったにも関わらず長い期間、手厚いご支援とご尽力を頂きました、近畿日本ツーリストの服部麻実様、伴流高志様に心より御礼申し上げます。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない。

引用および参考文献

- 1) 日本ボッチャ協会 : <https://japan-boccia.com/about> (参照. 2022. 1. 12)
- 2) 埼玉県ホームページ「埼玉県の緊急事態宣言措置及びまん延防止重点措置の推移」:
<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/203154/sochisuii.pdf> (参照. 2021. 12. 7)
- 3) 競技日程・スケジュール 東京 2020 NHK :
<https://sports.nhk.or.jp/paralympic/schedules/sports/boccia/> (参照. 2022. 1. 7)
- 4) 日本ボッチャ協会競技規則 2017-2020 v. 1 : <http://www.japan-boccia.net/jboarules.pdf>
(参照. 2021. 1. 11)

『「保育の造形Ⅰ」における学生の興味関心と授業改善の一考察』

Students Interests and in “Childcare Modeling I”

Consideration of Class Improvement

山下 佳香 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

本研究では「保育の造形Ⅰ」の授業において、本受講学生が「感じる」「気づく」「挑戦する」「工夫する」「試行錯誤する」を感じながら、保育者に求められる「感性」「創造力」「思考力」に重点をおきどのようなことに気づいているのか、子どもにとって「造形の大切さ」を明らかにすることを目的とする。また更に高めていくためにはどのような授業方法が良いのかその改善の一助とすることを報告する。

キーワード: 幼児教育、五領域、授業実践

1. はじめに

平成29年改訂された『幼稚園教育要領』において「第1章総則 第1幼稚園教育の基本」には、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり（中略）幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。（中略）幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を活かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。」とある¹⁾。また同じく平成29年に改訂された『保育所保育指針』においても「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」には「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」に保育所においては、生涯にわたる生きる力の基礎を培うことの大切さ（ア）豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」（イ）考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」（ウ）心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」とある。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中でも「カ 思考力の芽生え」「コ 豊かな感性と表現」は本授業で特に大切にしたいねらいである²⁾。

五領域の「表現」においては、1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容にて、（ウ）内容の取扱いに「感性を豊かにする経験」「試行しながら様々な表現を楽しむ」「自分の力でやり遂げる充実感」「発見や心が動く経験」に留意することが大切であり、配慮事項として「子どもの自発的な活動を尊重」とある。3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（ウ）内容の取扱いに「心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々な表現する」「自己表現は素朴な形で行われる」「子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむ」「保育者自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように（中略）、様々な素材や表現

の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に
して自己表現を楽しめるように工夫すること」とある^{1) 2)}。

実際の保育現場において、子どもたちは毎日ありとあらゆる「表現」を行っている。その一つ
として、「製作遊び」や「製作活動」も意味しているが、あえて「作品づくり」や「結果や成
果」「出来栄え」に拘るのではなく、「気づく」ことや「プロセス」を大切にしたい。

本研究では、「感じる」「気づく」「挑戦する」「発見する」「工夫する」「試行錯誤する」
ことの楽しさを感じられるような授業のあり方を探ることを目的とし、学生が自分自身の気持ち
を表現しながら実践する授業の楽しさから、子どもの創造性や世界観を大切にすることとは何
か、保育者として子どもの思いを大切にしたい「造形とは何か」を探る一助にしたいと考える。

2. 方法

国際学院埼玉短期大学「保育の造形Ⅰ」を受講した1年生90名を対象とし、表1の質問紙を
用いてアンケート調査を行った。

表1 「保育の造形Ⅰ」のアンケート

アンケートご協力をお願い

←

「保育の造形Ⅰ」の授業を受講して感じたことのアンケートになります。←

結果は、本学紀要論文に活用させていただくことをご了承願います。また、こちらで得ました情報は漏洩しな
いよう管理を徹底致します。ご協力のほどよろしくお願い致します。←

国際学院埼玉短期大学 幼児保育学科←

山下 佳香←

問1. 子どもにとって「造形活動（自由に自分らしさを表現する活動）」は必要なことだと思いますか。←

はい

いいえ←

問2. 問1にて「はい」と書いた方に聞きます。なぜ、必要だと思いますか。簡単に理由を書いてください。←

(

)←

問3. 問1にて「いいえ」と書いた方に聞きます。なぜ、そのように思いますか。←

(

)←

問4. 「保育の造形Ⅰ」の授業内容で一番興味のあることを○印してください（一つのみ答えてください）←

① 色の冒険（利き手ではない手でクレヨンで描く）←

② 自分だけの色を作っちゃおう←

③ マーカーの散歩（マーカーで自由に描く）←

④ フロッタージュ（葉っぱの鉛筆でのこすり絵）←

⑤ タオル・スポンジタンポ←

⑥ にじみ絵（てるてる坊主づくり・せんたくかあちゃん）←

⑦ シャボン玉で絵を描こう←

⑧ ひも絵←

- ⑨ デカルコマニー（対称的な絵） ←
- ⑩ ビー玉転がし絵 ←
- ⑪ 切り紙（折り紙を折ってハサミで切り、開いたら雪の結晶みたいな形になったりする） ←
- ⑫ スパッタリング（網の上をブラシでこする） ←
- ⑬ スクラッチ（ひっかき絵） ←
- ⑭ 五峯祭ポスター製作 ←
- ⑮ 小麦粉粘土遊び ←
- ⑯ スライムづくり ←
- ⑰ スノードームづくり ←
- ⑱ マーブルリング ←
- ⑲ 暑中見舞いはがき製作 ←

問5. 問4で○をつけた選択肢の理由やなぜその遊びの面白さについて書いてください。 ←

() ←

問6. 問4で○をつけた選択肢の遊びは子どもにとってどのような面白さがあると思いますか。 ←

()

問6. その他お気づきの点など書いてください。 ←

() ←

←

ご協力いただきましてありがとうございました。 ←

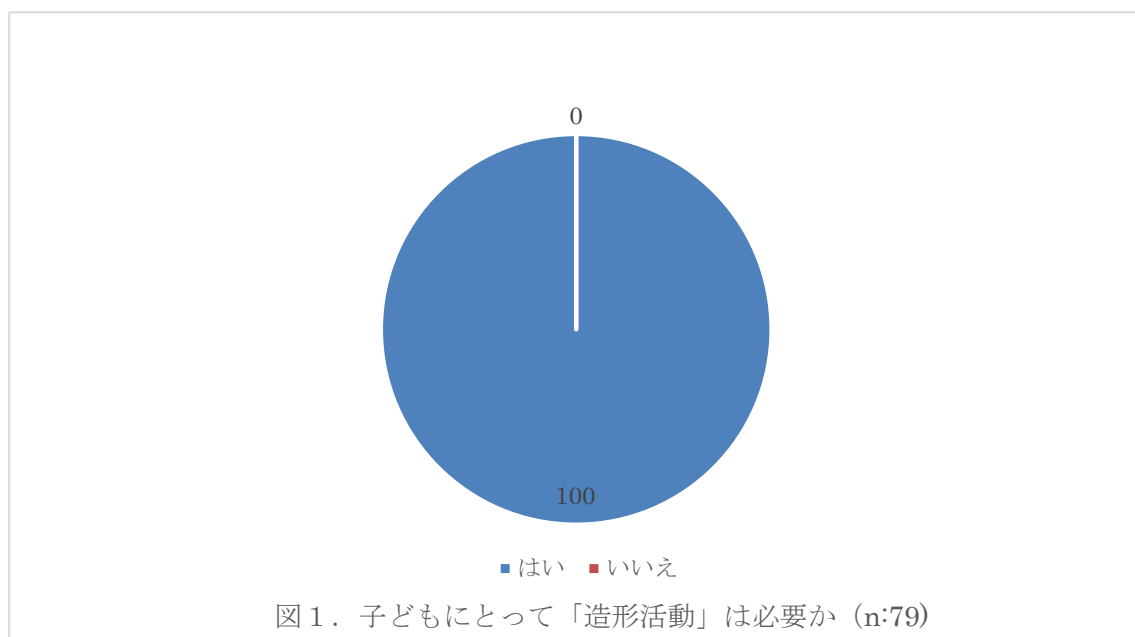
「

」

3. 結果

アンケートに回答した学生は79名（87.7%）であった。

「問1. 子どもにとって「造形活動（自由に自分らしさを表現する活動）」は必要なことだと思いますか」について



回答者 79 名のうち全員が「造形活動」は必要であると答えた（図 1）。

「問 2. 問 1 にて「はい」と書いた方に聞きます。なぜ、必要だと思いますか。簡単に理由を書いてください。」について

学生の意見をテキストマイニングしたところ多く表れた言葉が「自分らしさ」や「表現」「想像力」「表現力」「発想力」であった（図 2）。

また、「名詞」では「表現」「想像力」「個性」、「動詞」では「できる」「繋がる」、「形容詞」は「楽しい」「面白い」のスコアが高くそれぞれのつながりが見られる（図 3）

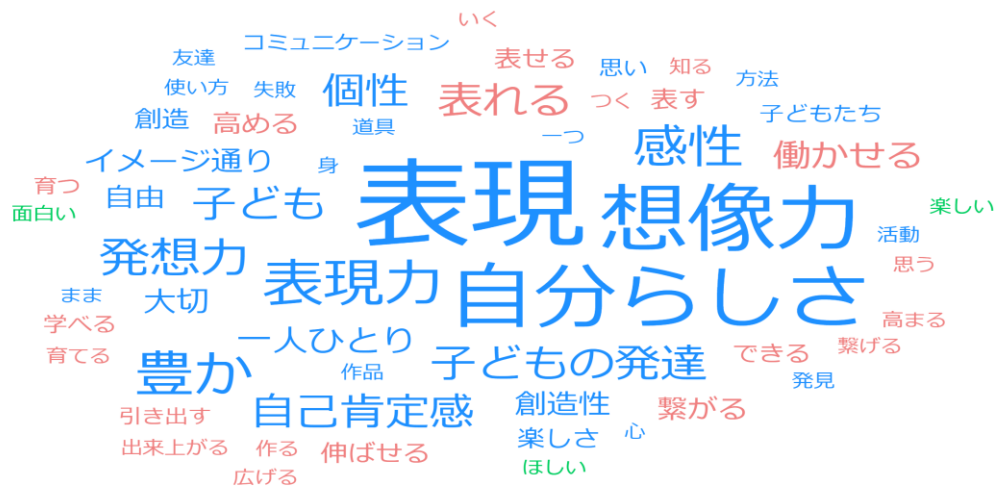


図 2. なぜ「造形活動」が必要なのか(テキストマイニング分析によるワードクラウド)

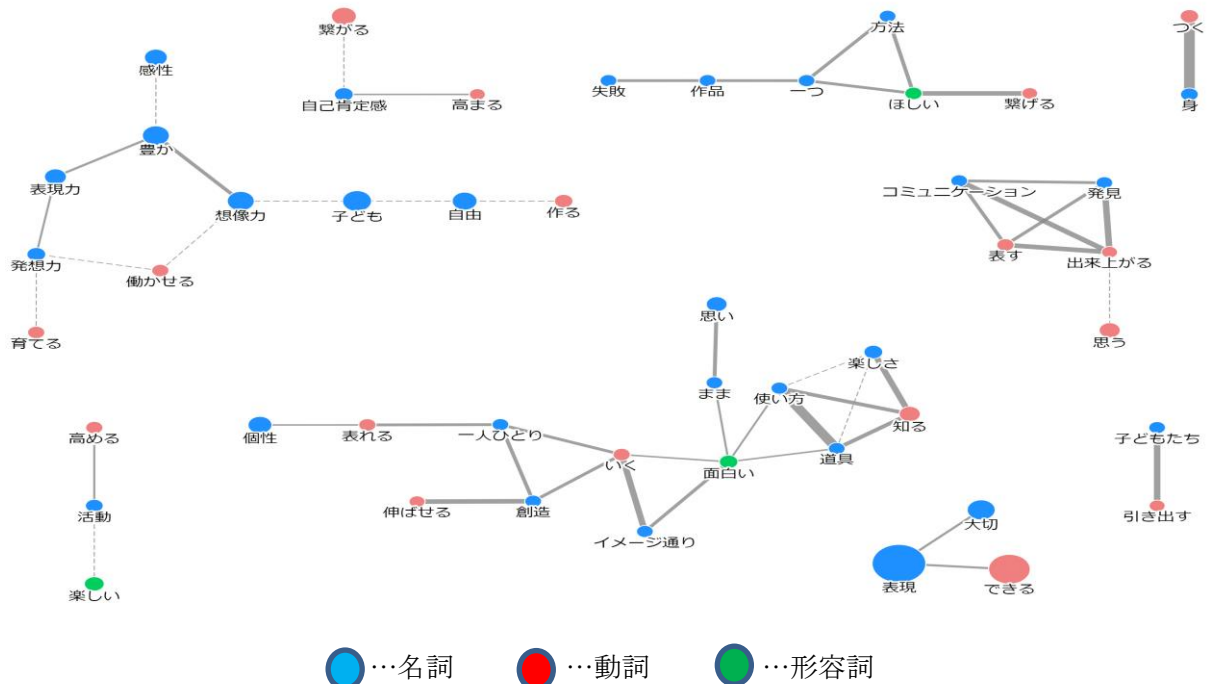


図 3. テキストマイニング分析による抽出語の共起ネットワーク

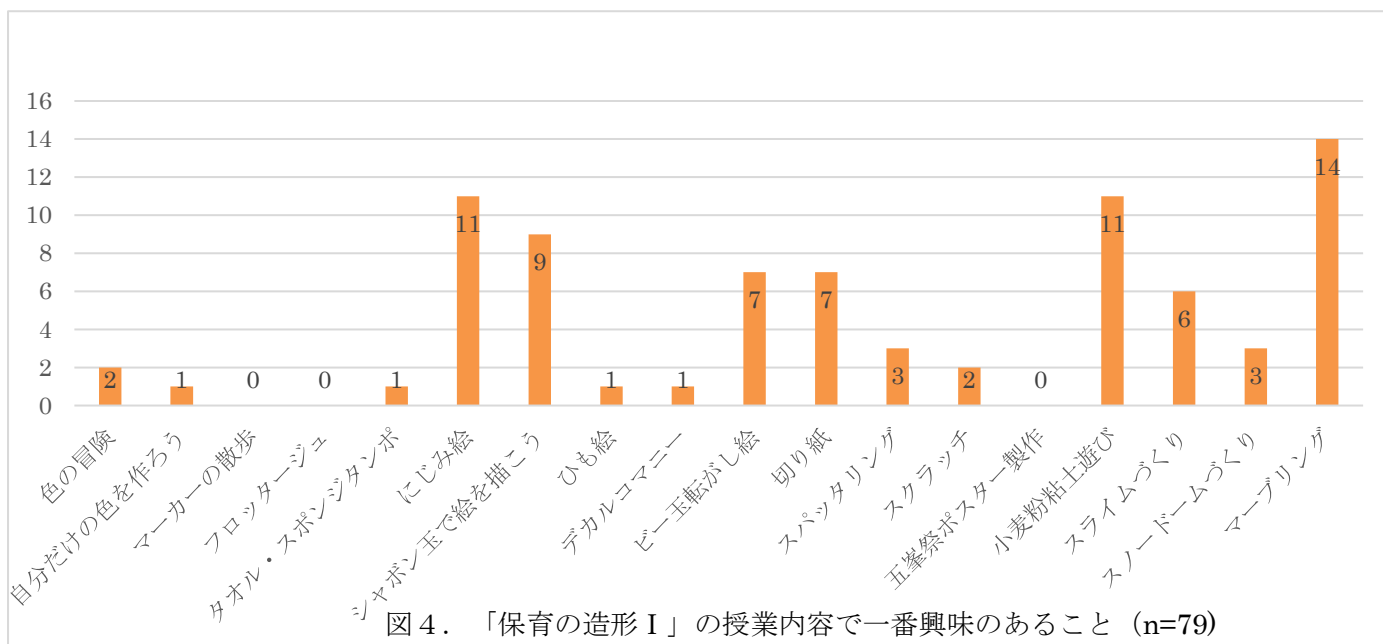


図4. 「保育の造形 I」の授業内容で一番興味のあること (n=79)

「問5. 問4で○をつけた選択肢の理由やその遊びのおもしろさについて書いてください。」について

問4の学生件数で全体の8%以上あった「マーブルリング」「小麦粉粘土づくり」「にじみ絵」「シャボン玉で絵を描こう」「ビー玉転がし」「切り紙」「スライムづくり」について学生の意見を以下に示す。(以下3-3~5まで同じとする)

下記の意見は、学生のそのままの文章である。ありのままの学生の意見を知ることにつながると感じ、学生の意見をそのまま掲載することにした。

【「マーブルリング」17.7%】

- ・色々な色の彩液を垂らし模様をつけ、紙に写し取るおもしろさがある。
- ・水に紙を入れることがおもしろい。
- ・思いもよらない作品ができることが楽しい。
- ・水の中に模様ができ、世界に一つだけのものができることが楽しい。
- ・予想もしなかったきれいな作品ができることに驚いた。
- ・水で絵ができるおもしろさがある。
- ・紙にマーブルリングができたことがおもしろかった。
- ・水面で作れるおもしろさ。
- ・水に浮かべて色々な色に染まる楽しさやおもしろさがある。
- ・作って完成するまでワクワクする楽しさがあり、紙をひっくり返してみた時に驚きがある。
- ・思ってもいない表現のおもしろさがある。
- ・水のおもしろい動きで簡単に不思議な模様ができる。
- ・水の上に落とした彩液の動きがおもしろく、紙に写したときとてもびっくりした。
- ・色が混ざるわけではなく、模様になることがおもしろい。

【「小麦粉粘土づくり」13.9%】

- ・小麦粉のさらさらとした感触がなんとも言えない。水を入れた時に固さが変化する楽しさ。

- ・手でこねる感触がおもしろい。
- ・幼いころにやったことを久し振りに遊んで楽しかった。
- ・感触が楽しい。
- ・簡単に作ることができ、にぎったり、どろどろしたり、色々な感触が味わえることが楽しい。
- ・感触を楽しむことが楽しい、おもしろい。
- ・固まる瞬間やトロっとする瞬間がなんとも言えない。
- ・小麦粉の感触がとても不思議で何とも言えないおもしろさがある。
- ・においや感触など五感で感じる楽しさがある。
- ・手で感じる感覚や自由自在に形を変えることができる楽しさ。
- ・手触りや感触が楽しい。

【「にじみ絵」12.6%】

- ・紙の上でにじむのが楽しい。水の量によって範囲が変わるのがおもしろい。
- ・思った通りの模様にならないのがおもしろい。
- ・自分だけのオリジナルのTシャツを作り、絵本からのつながりがおもしろかった。
- ・同じ色を付けても絶対に同じ色にならないところがおもしろい。
- ・にじみ方がおもしろいから。
- ・色の広がり方が楽しい。
- ・にじみ出る色の出方が楽しい。
- ・絵本『せんたくかあちゃん』からのつながりで、色々な洗濯物ができ、みんなのにじみ絵を見ただけで感性が広がるなど感じたから。
- ・好きな色を組み合わせることで、広げた時に自分だけのオリジナル洋服ができて楽しかった。
- ・自分だけのオリジナルの洋服ができることが楽しい。

【「シャボン玉で絵を描こう」11.4%】

- ・泡になるのがきれいで息を吹く楽しさがあった。
- ・思いもよらない絵ができる楽しさ。
- ・自然に表れる形がおもしろい。
- ・シャボン玉のプクプクした泡が割れて形が色づく楽しさがある。
- ・手だけではなく口を使つての活動が楽しかった。
- ・自分自身初めての挑戦でとてもワクワクした。
- ・シャボン玉の模様がとてもかわいかった。
- ・シャボン玉をどのようにしたら泡が出る吹き方を変えたり工夫したりできる面白さがある。
- ・シャボン玉で絵を描くことが初めての経験であったため。

【「ビー玉転がし」8.9%】

- ・色や転がし方によって雰囲気異なり、同じ作品は二度と作れないおもしろさがある。
- ・筆ではなくビー玉を使って絵が描けることのおもしろさがある。
- ・ビー玉が色々な所へ転がることがおもしろい。
- ・二度と同じものはできないおもしろさや、コロコロ転がす楽しさがある。
- ・予測不能なビー玉の動きやビー玉で広がっていく線のおもしろさがある。
- ・身近なモノで自分で想像もできない模様ができて楽しい。

- ・何ができるかわからないなかで、予想もしない作品のおもしろさがある。

【「切り紙」8.9%】

- ・折り紙を自由に折って切って、切ったものを広げる楽しさや思いもよらない模様、それを使いスパッタリングをして、色々な工程で楽しめることがおもしろい。
- ・予想もできない形ができておもしろかった。
- ・幼いころ遊んだ記憶があり何度もやっておもしろかった。
- ・切る楽しさや開く楽しさ、見る楽しさがある。
- ・自由に切込みを入れて、素敵に形が作れる楽しさがある。
- ・切り方で柄が変わり、二度と同じものを作れない。
- ・折り紙に切込みを入れて、開くまでどのような形ができるのかわからない不思議な感覚がある

【「スライムづくり」8.7%】

- ・触り心地がなんとも言えない感触で気持ちがいい。
- ・この活動は何歳になっても大人になっても楽しいと思う。なぜこのようなスライム状になるのかとても不思議な感覚になる。
- ・スライムの材料の水と洗濯糊の分量を考えながら混ぜたり、固さが変わったりすることがおもしろく、色を付けたりビーズやスパンコールを入れて、遊びながら工夫することができることが楽しい。
- ・スライムの材料「ほう砂」を初めて知り、作り方も簡単で感触を楽しめる。
- ・身近な材料で完成形に向けて色々考えたり試したりとても楽しいと感じた。
- ・伸ばしたり丸めたり、ずっと触っていたいと思える感触のおもしろさ。
- ・楽しく感触を感じることができる。

「問6. 問4で○をつけた選択肢の遊びは子どもにとってどのような面白さがあると思いますか。」について

「マーブリング」「小麦粉粘土づくり」「にじみ絵」「シャボン玉で絵を描こう」「ビー玉転がし」「切り紙」「スライムづくり」について学生の意見を示す。

【「マーブリング」17.7%】

- ・どんな模様になるのかワクワクする。
- ・期待感
- ・思いもよらない作品
- ・水の中で色が混ざり、紙を浮かして取り外すと何ができるのかな…と不思議な気持ち
- ・模様を見て見立てる楽しや見立て遊び
- ・水の冷たさ、水に絵ができる楽しさ
- ・不思議な思い
- ・水に模様ができるおもしろさ
- ・どんな模様ができるのかワクワクする気持ちが湧いてくる
- ・マーブリングの工程がおもしろい（水の感触や筆ではない模様が描けるおもしろさ）
- ・不思議な模様ができるおもしろさ
- ・同じ模様にならないおもしろさ
- ・同じ絵ができないおもしろさ

- ・自分の好きな絵ができる

【「小麦粉粘土づくり」13.9%】

- ・小麦粉に触れたり混ぜたり感触の楽しさ
- ・こねたり、叩いたり、感触の楽しさを味わいながら好きな形を作ることができる
- ・五感を大切にできる
- ・触る楽しさが体験できる
- ・握って、ドロドロして、不思議な感触
- ・パンができるまでこんな感触なんだと感ずることができる
- ・粉状の小麦粉が変化することに気づく
- ・身近なモノで水の量が変わるだけで触り心地が変わる楽しさ
- ・水や小麦粉の量を考えながら固さを考え、触感を感じることができる楽しさを味わえる
- ・自由自在に形を変えることができる
- ・触ったり、作ったりが楽しい

【「にじみ絵」12.6%】

- ・色が混ざるのとは違い、にじむおもしろさが味わえる
- ・水につけてからのにじみ絵の工程がおもしろい
- ・色がにじむおもしろさ
- ・にじみ方が色々あっておもしろい
- ・色の広がりやほかの色と混ざるのがおもしろい
- ・自分の好きなように模様をつけたり広がりを見て楽しむ
- ・折って、水をつけて、広げた時の色の出方のおもしろさ
- ・色が混ざると色々な色になる発見がある
- ・てるてる坊主に見立てたり、せんたくかあちゃんをしたり色々見立て遊びも出来ておもしろい
- ・好きな色形ができておもしろい

【「シャボン玉で絵を描こう」11.4%】

- ・想像できない泡のつき方がおもしろい
- ・シャボン玉遊びの広がりのおもしろさ
- ・自分で息を吹いて形になるおもしろさ
- ・シャボン玉を空に飛ばすだけではなくて、絵を描くことや、泡がプチプチと割れる楽しさ
- ・一人ひとりの違う模様がたのしい
- ・シャボン玉遊びからの造形活動への広がりが楽しい
- ・シャボン玉でいろんな形や大きさを紙に描くことが楽しい
- ・工夫する楽しさ
- ・吹いて泡が絵になるおもしろさ

【「ビー玉転がし」8.9%】

- ・ビー玉を転がす楽しさ
- ・何回やっても絶対に同じものができない楽しさ
- ・色々なところに自由に転がり、オリジナルに作りすることができる
- ・ビー玉を転がす楽しさやコロコロと音が出るのが楽しい
- ・予測不可能なビー玉の動きがおもしろい

- ・箱を傾けただけで模様ができる楽しさ
- ・何ができるかわからないワクワクする気持ち

【「切り紙」8.9%】

- ・一人ひとり違う形ができる楽しさ
- ・想像できなかった形を見て、何かに見立てて遊べる
- ・一人ひとり違う形ができる
- ・「何ができたかな？」とワクワクする気持ちを味わう
- ・自分だけの作品ができる楽しさ
- ・切り方によって色々な違いや想像することが楽しい
- ・自由に切ることができ、二度と同じものは作れず世界に一つだけの作品

【「スライムづくり」8.9%】

- ・触り心地や完成するまでの工程がおもしろい
- ・どうなるのか期待感が湧き、実験のようなことが楽しい
- ・手で触った時の感触や人と違う固さがおもしろい
- ・スライムができる工程や感触の不思議さ
- ・手で触った感触や目を見た色など五感で楽しめる
- ・自分の思うように形を変えることができる
- ・感触を楽しむことができる

「問7. その他について」

79人中、78人は「特になし」の回答であったが、一人「誤飲を防ぐためにどのような配慮点
が大切なのか考えることが保育者として必須である」と答えていた。

4. 考察

(1) 子どもにとって「造形活動」は必要

問1. からわかるように子どもにとって100%「造形活動」必要であると答えている(図1)。それは、実習などで子どもと出会う経験や子どもと触れる中で、子どもがいかに生活や遊びの中で「造形活動」を行っているかが学生の日誌や実習アンケートの様子からも見られる。子どもにとって遊びとは、成果や結果を出すことではなく、身近な環境に触れ、その中で感じ、色々なことを試すプロセスである。そのプロセスの中で、様々なことを感じながら試したり、工夫したりすることがまさに「造形活動」の醍醐味であると考えられる。そのため学生は、保育者を目指す実習生として、子どもの育ちに「造形活動」は必須であると感じたのではないだろうか。

結果からもわかるように子どもが体験している「造形活動」を、学生自身が体験することによって、学生がよりその子どもの気持ちを理解することに近づくのだろうと感じられる。その理由として「自分らしさ」や「表現」「想像力」「表現力」「発想力」が多く表れていることが図2. 3テキストマイニングの結果からもわかる。学生自身がいかに関与し「自分らしさ」や「自分自身を發揮する」ことがどれほどおもしろいと感じ、『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』に示されているように、初めての集団生活を経験する子どもたちにとって「自分の思いを十分に發揮する」ことや「自分の思いを表すことの楽しさを経験する」ことがとても大切であることから、「造形活動」は子どもの思いを發揮する場としてとても有効であると感じたため100%が必要で

あると回答したと考えられる。

(2)「造形活動」は「表現」「想像力」「自分らしさ」を大切に

学生は、各授業の中で、「自分を表現することの大切さ」や「想像力の大切さ」「自分自身を發揮する」ことのおもしろさや楽しさを感じていたように思う。それは、授業後のリアクションペーパーに「自由に」「自分らしさを」「制限なく」「發揮する楽しさ」などの言葉が多く書かれており、これまでの経験から「こう表現すべきではないか」「こうあるべき」「うまく書かなくてはいけない」「自分は苦手だから」と固定概念や成果や結果にとらわれていることも多々あったように感じる。しかし、子どもの表現は「自由な発想」「決まりはない」ということを知り、学生自身も体験しながら「自分らしさの発見」に繋がっていたように感じる(図2)。

(3)学生にとって「おもしろい」感覚とは

図4で多い件数で表れている「マーブリング」「小麦粉粘土遊び」「にじみ絵」は全て「感触がおもしろい」「五感を巧みに使う楽しさ」「予想もしなかった期待感」などとおもしろさの自由記述が見られる。学生にとって「おもしろい」とは「自由で思いがけない模様や予想もしなかった活動」であることが考えられる。子どもたちと同じようにプロセスが楽しく、「こうしたい」「ああしたい」という気持ちや意欲が湧いてきて、「もっとやりたい」「授業時間外でもしたい」という学生がたくさん見られた。その感覚こそが子どもたちにとって大切なことであり、「やってみたい」という気持ちの連続がまさに「保育」なのであると感じた。

5. おわりに

今回、筆者は「保育の造形Ⅰ」授業を担当する中で、子どもにとっての「造形」とは何か、また「子どもにとってなぜ造形が大切なのか」ということを学生の授業の姿から感じる事ができた。これまでの授業は、「色の色彩」や「形を作る」というやや図工的な授業を行っていたように感じる。今年度は授業振り返りからも再考し、「成果や結果」を気にしない「プロセス」の大切さを感じられる授業内容を考えた。学生は、こちらが準備する教材以上のものを工夫したり発見したり、もっとこういうことをしたいとリクエストなど意欲的に参加してる姿は授業者としても嬉しかった。今後も「造形表現のおもしろさ」や学生の興味関心の向上につながる教授方法のあり方を考えていく必要性を感じる。

著者の利益相反： 開示すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 文部科学省、『幼稚園教育要領』, 2017, フレーベル館
- 2) 厚生労働省、『保育所保育指針』, 2017, フレーベル館

参考文献

日名子考三 長谷川悦子(2015)『保育現場に於ける造形指導の問題点と授業に於ける学生の表現について』
文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 16 pp49~61

- 村田 透（2016）『「造形遊び」の題材における幼児の造形表現過程に関する研究』美術教育学
（美術科教育学会誌）第37号
- 大野琴絵 山岸君江（2018）『想像力の育成を図る授業方法の改善』—図画工作及び色彩計画の
授業から—国際学院埼玉短期大学研究紀要42号
- 山中慶子（2021）『保育学生の造形方言における苦手意識克服のための授業実践—造形表現に
関する意識調査からの考察を通して—』長崎女史短期大学紀要 第46号

研究業績

研究業績(2021年1月～12月)

I. 学術論文

馬場和久

馬場和久、大 雅世、古俣智江：コロナ禍における児童の学校給食に関する意識調査,国際学院埼玉短期大学研究紀要 第46号,2021 ; 65 - 75.

古俣智江、馬場和久：コロナ禍での短期大学栄養士養成課程における校外実習に関する報告,国際学院埼玉短期大学研究紀要 第46号,2021 ; 76 - 85.

大野満奈

大野満奈：「特別活動から学ぶ生きる力」—学校行事に焦点をあてて— 国際学院埼玉短期大学研究紀要第47号 令和3年11月 p1～p15

佐野ゆかり

佐野ゆかり：教育実習を通じた学生の学び — 幼稚園における新型コロナウイルス感染症防止対策について —. 国際学院埼玉短期大学研究紀要 2021; 46: 16-27.

牧野和江

牧野和江：「子ども理解をするためのドキュメンテーションの活用」

国際学院短期大学研究紀要第46号 2021年3月

古木竜太

古木竜太：身体表現活動の実践的研究—五峯祭の活動に着目した事例—. 国際学院埼玉短期大学研究紀要. 2021 ; 46 : 49-64

大 雅世

馬場和久、大 雅世、古俣智江：コロナ禍における児童の学校給食に関する意識調査,国際学院埼玉短期大学研究紀要 第46号,2021 ; 65 - 75.

越智光輝

越智光輝：音楽を伴う表現活動に関する保育現場 372 か所への調査 —幼稚園 39 園、保育所 61 園、幼保連携型認定こども園 16 園の回答によるピアノの演奏に関する課題の検討—. 国際学院埼玉短期大学研究紀要 2021 ; 第46号 : 1-15.

古俣智江

古俣智江、馬場和久：コロナ禍での短期大学栄養士養成課程における校外実習に関する報告,国際学院埼玉短期大学研究紀要 第46号,2021 ; 76 - 85.

馬場和久、大 雅世、古俣智江：コロナ禍における児童の学校給食に関する意識調査,国際学院埼玉短期大学研究紀要 第46号,2021 ; 65 - 75.

加藤隆芳

加藤隆芳：保育実習Ⅰ（施設）に向けた学修内容の検討 ―学内事前実習及び本実習における学びのふりかえりから―. 国際学院埼玉短期大学研究紀要 . 2021 ; 第47号 : 16-27.

Ⅱ. 著書

清水 誠

清水誠（監修）：さいたま市史自然編―昆虫類―，さいたま市，2021，1-92

鈴木玉枝

鈴木玉枝：石長孝二郎他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第8巻 臨床栄養学実習 傷病者の Nutrition Care Process 演習.医歯薬出版株式会社,東京,2021;81-99

越智光輝

越智光輝：子どもとうたおうピアノでド・レ・ミ！レベルにあわせて楽しく弾ける50曲.
株式会社三恵社，愛知，2021.

高橋淳一郎

次良丸睦子・五十嵐一枝・相良順子・芳野道子・高橋淳一郎(編著)：現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床. 福村出版，東京，2021 ; 71-88, 121-129, 141-159, 200-202, 209-216.

加藤隆芳

筑波大学特別支援教育連携推進グループ（編）：授業を豊かにする筑波大附属特別支援学校の教材知恵袋 自立活動編. ジアース教育新社，東京，2021 ; 82-83.

Ⅲ. 講演－学会発表

山下佳香

山下佳香：『乳児の保育環境』『乳児の発達に応じた保育内容』学研アカデミー保育士養成講座 2021.4～2022.3

山下佳香：『保育者養成校における日誌形式の比較検討』第2回日本乳幼児保育者養成教育学会ポスター発表（実習部会長）Aグループ座長 2021.12

加藤隆芳

加藤隆芳、小林博信：肢体不自由児の自立と社会参加への力を育むキャリア教育の研究—消費者教育の視点から—，第49回肢体不自由教育実践研究協議会（東京），2021.

加藤隆芳：特別支援教育への視野を育成するための 保育実習（施設）における学修事項の検討—学習上又は生活上の困難の理解に着目して—．日本特殊教育学会第59回大会（茨城），2021.

IV. 芸術分野における研究発表

佐野ゆかり

佐野ゆかり：日本舞踊 長唄「越後獅子」：さくや会．花柳智寿彦主催，江戸東京博物館大ホール，東京，2021

越智光輝

越智光輝，門倉美香，肱岡 龍耶他：越智音楽教室第17回発表会．目白台越智音楽教室主催，ヤマハ銀座コンサートサロン，2021.

越智光輝，門岡明弥：越智光輝音楽会公開収録．目白台越智音楽教室主催，ヤマハ銀座店 1F，2021.

越智光輝，門倉美香，田口裕：第22回“liby”チャリティーコンサート．東京YMCA主催，東京YMCA山手コミュニティーセンター，2021.

越智光輝他多数：第12回やまなし夏の演奏会．やまなし夏の演奏会事務局主催，清里の森・森の音楽堂，2021.

越智光輝，門倉美香，田口裕：Piano Trio 727283.com Salon Concert．ヤマハ銀座店主催，ヤマハ銀座コンサートサロン，2021.

V. 電子メディア情報

越智光輝

越智光輝，門倉美香，田口裕：第22回“liby”チャリティーコンサートオンラインライブ配信．東京YMCA，東京YMCA山手コミュニティーセンター，2021.

YouTube 動画配信

越智光輝，門岡明弥：越智光輝音楽会①久石譲：人生のメリーゴーランド（動画配信 <https://www.youtube.com/watch?v=5sDiDtmcVm8&t=15s>）．目白台越智音楽教室，ヤマハ銀座コンサートサロン，2021.

VI. その他（テレビ出演・市民大学等の講師等）

大野博之

大野博之：国際学院埼玉短期大学令和3年度第1回全体FD・SD「教職協働による組織改
～学習する組織～」(2021.5)

大野博之：認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信 E・N・S通信 No. 30に寄稿
「SDGsで、誰一人取り残さないチャレンジ」(2021.3)

清水誠

清水誠：思考力を育成する，蕨市立第一中学校，蕨市，2021.2.19

清水誠：さいたま市の天然記念物ー田島ヶ原サクラソウ自生地，市民大学講座（さいたま
市），2021.10.14

中村敏男

中村敏男：「北本市いじめ問題調査委員会」（市内小中学校のいじめ問題について、事実の確認、背景の
調査、小中学校の指導のあり方などについて検討する。）北本市．北本市．2010

鈴木玉枝

鈴木玉枝：令和3年度 第3回学校栄養職員5年経験者研修、第4回中堅学校栄養職員資質向上研
修、第7回新規採用栄養教諭研修、第3回栄養教諭5年経験者研修、さいたま市教育委員会、さいたま
市、2021.

牧野和江

牧野和江：「就学前を前に・・・もうすぐ1年生」、所沢市立中央小学校・所沢市立若狭小学校・所沢市立
安松小学校，2021.

牧野和江：「令和3年度幼稚園等中堅教諭等 教育課程の役割と編成、自己点検と自己評価」、埼玉県
立教育センター，2021

牧野和江：「多様な子ども達とクラスづくり」（ズーム開催）、さいたま市私立幼稚園協会，2021.

富重慶子

富重慶子：「日本食を見直す ～栄養バランスと健康～」，さいたま市教育委員会主催
さいたま市民大学，さいたま市，2021

山下佳香

山下佳香：『千葉県保育士保育技術講習会 身近な素材で子どもたちと遊ぼう』、千葉県社会福祉協議会，
2021.

山下佳香：『造形教育士便り「すばる」第21号巻頭掲載』2021.

小池比奈子

小池比奈子：「Blooming Days PLUS -日々是好日-」 「日本を知ろう、お箸の国のお箸のお話」 .
KOCO ラジ,郡山市, 2021

小池比奈子：「Blooming Days -日々是好日-」 「食器としての焼き物の歴史」 . TOKYO854,
東久留米市,2021

VII. 叙勲・表彰・受賞・その他

倉澤俊夫

倉澤俊夫：秩父市市政功勞表彰（自治功勞） 2021.11

中平浩介

中平浩介：全国保育士養成協議会教職員表彰.2021.2.1

編集委員

田中政巳

中村敏男

鈴木玉枝

加藤隆芳

島村悟

国際学院埼玉短期大学研究紀要 第48号

令和4年3月31日発行

編集 国際学院埼玉短期大学研究推進委員会

発行者 大野博之

発行所 学校法人 国際学院 国際学院埼玉短期大学

〒330-8548 埼玉県さいたま市大宮区吉敷町2-5

電話 048-641-7468 Fax 048-641-7432

<https://sc.kgef.ac.jp/>

**BULLETIN
OF
KOKUSAI GAKUIN SAITAMA COLLEGE
No.48, March 2022**

CONTENTS

Research Report

Confidence in Teaching of Childcare Contents "Environment"

..... Makoto SHIMIZU 1

“A Study of Childcare Training Guidance at Childcare Training Schools”

-Based on a Questionnaire Survey of Students who have Completed
Education and Childcare Training-

..... Yoshika YAMASHITA 10

Musical Expression Area, Modeling Expression Area, in "Childcare Content:
Expression” Practical Exams in the Area of Physical Expression and Analysis
of Student Reports

..... Yoshika YAMASHITA • Ryuta FURUKI • Mitsuteru OCHI 22

Research Data

A Report on Implementation of Physical Education Events during the
COVID-19 Pandemic

..... Ryuta FURUKI 34

Students Interests and in “Childcare Modeling I” Consideration of Class
Improvement

..... Yoshika YAMASHITA 49
